

報告事項エ

平成29年度子どもの読書活動に関するアンケート調査結果について

平成29年度子どもの読書活動に関するアンケート調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成30年4月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成29年度 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

社会教育課

1 調査目的

平成26年度に「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第3次計画）」（平成26年4月から概ね5年間の計画）を策定し、子どもの読書活動推進施策を進めている。

この度、平成31年度以降の新たな計画の策定に向け、本県の子どもたちを取り巻く読書環境について実態把握を行い、今後の具体的施策を検討する上での参考とするため、アンケートを実施した。

2 調査方法

(1) 実施時期

平成29年11月24日～12月28日

(2) 対象

対象	対象校（園・所）数	アンケート回収枚数
幼稚園、保育園、認定こども園 年長児保護者	20	364
小学3年生	23	706
小学6年生	23	746
中学3年生	18	606
高校2年生	8	279
大学生	4	241
合計	96	2,942

3 調査結果の概要（※アンケート調査の詳細は別添のとおり。）

(1) 年長児保護者

①家庭での読み聞かせ

- ・家庭での読み聞かせを行わない割合が前回調査から減少した（今回5.8%←前回10.4%）ほか、週3～4日以上実施する割合が48.1%（前回45.6%）と増加している。読み聞かせへの意識が高まっていると考えられる。＜問4＞

②公立図書館の利用

- ・前回調査より公立図書館を利用しない割合が減少した（今回48.7%←前回53.7%）。＜問11＞
- ・公立図書館を利用しない理由としては、前回調査同様「幼稚園・保育所・認定こども園で本を借りられるから」が最も多い（今回51.6%←前回64.5%）。また、今回調査から選択肢に加えた「借りたり返したりする手間が面倒だから」が28.4%と比較的多く存在する。＜問12＞

③電子書籍の利用

- ・子どもに読み聞かせをする際に電子端末（タブレットやスマートフォンなど）を「利用したことがある」のは10.9%のみであり、電子メディア機器の普及が著しい中でも、紙の本での読み聞かせが大多数であることがわかる。＜問14＞

- ・子どもたちの読書について「電子書籍が普及しても、子どもには紙の本を読ませたい」が前回調査より大幅に増えた（今回41.6%←前回18.4%）。電子メディア機器が急速に普及する中でも、紙の本の良さを感じる保護者も多い。一方で、「デジタル化は世の中の流れなので紙の本と電子書籍を区別する必要はない」も増加している（今回8.3%←前回4.6%）。

<問18>

④保護者の読書習慣

- ・保護者自身の読書習慣について、「ときどき読む」の回答が最も多く、34.2%。一方「ほとんど読まない」「全く読まない」割合が5割を超える（51.2%）。<問19>
- ・なお、設問やアンケート対象が異なるが、類似の全国調査の結果と比較すると、同様の傾向が見られる。

<【参考】株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017版）から抜粋
読書習慣の有無>

	H29	H27	差
読書の習慣がある	39.4%	50.8%	△11.4
読書の習慣はない	60.6%	49.3%	+11.3

※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効回答数1,200）
調査期間：平成29年10月18日～10月19日

- ・「ほとんど読まない」「全く読まない」の理由としては、「家事や仕事や育児で忙しいから」が最も多く72.3%。<問20>

(2) 小学生～大学生

①読書に対する意識

- ・前回調査と同様の傾向であり、大学生を除き、学年が上がると読書が「好き」「どちらかという」と好きの割合は減少している。
- ・小学生では、読書が「好き」「どちらかという」と好きが前回調査から増加しているが（小3：+0.4ポイント、小6：+4.8ポイント）、中学生・高校生では減少し（中3：△2.6ポイント、高3：△5.2ポイント）、大学生では横ばいとなっている。
- ・高校2年生以外のすべての調査対象で、読書が「好き」が増加している（小3：+4.2ポイント、小6：+7.2ポイント、中3：+1.3ポイント、大3：+5.7ポイント）一方で、小学6年生以外のすべての調査対象で「嫌い」が増加（小3：+1.3ポイント、中3：+0.7ポイント、高3：+2.4ポイント、大3：+1.8ポイント）しており、二極化が見られる。

<問1>

- ・なお、類似調査では、全国と比較して本県の子どもたちは読書が好きな傾向がある。

<【参考】H29年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査結果から抜粋
「読書は好きですか」という設問に対する肯定的回答の割合>

	本県	全国	差
小学6年生	75.7%	74.3%	+1.4
中学3年生	74.9%	69.9%	+5.0

②不読率（一ヶ月に一冊も本を読まない割合）

- ・前回調査と比較して、小学生～中学生では微増減にとどまったものの、一方で、高校生、大学生においては不読率が増加した。なお、すべての調査対象で一か月に6冊以上読んだと答えた割合が増加（小3：+8.3ポイント、小6：+9.0ポイント、中3：+0.2ポイント、高3：+0.7ポイント、大3：0.3ポイント）しており、本を「読む」子どもと「読まない」子ども

の差が広がっていると考えられる。〈問12〉

〈不読率の前回調査との比較〉

	今回 (H29年度)	前回 (H24年度)	差
小学3年生	4.5%	3.2%	+1.3
小学6年生	7.2%	8.5%	△1.3
中学3年生	14.5%	17.0%	△2.5
高校2年生	29.3%	21.3%	+8.0
大学生	35.8%	24.4%	+11.4

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、本県の小学生、中学生の不読率は同程度。高校生の不読率は大幅に低い。

〈【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
不読率（5月一か月の間に読んだ本の冊数が0冊の子どもの割合）〉

	H29年度
小学生	5.6%
中学生	15.0%
高校生	50.4%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽出（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

調査期間：2017年6月1・2週

- ・一ヶ月に一冊も本を読まなかった理由としては、小学生、高校生では「スポーツ少年団や習い事があるから」が最も多い（小6：34.5%、小6：34%、高44.3%）。大学生では「勉強があるから」「アルバイトがあるから」が最も多い（どちらも21%）。〈問13〉
- ・中学生は「本を読みたいと思わない」が最も多いが（41.2%）、小学6年生、高校生においても2割を超えており、まずは本を手取るきっかけが必要だと思われる。〈問13〉

〈「本を読みたいと思わない」割合の前回調査との比較〉

	今回 (H29年度)	前回 (H24年度)	差
小学3年生	6.9%	15.0%	△8.1
小学6年生	22.6%	26.4%	△3.8
中学3年生	41.2%	32.0%	+9.2
高校2年生	26.6%	31.3%	△4.7
大学生	16.0%	37.2%	△21.2

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、本を読まない理由として「読みたいと思わなかった」割合は全国と比較すると低い傾向にあると思われる。

〈【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
5月一か月の間に読んだ本の冊数が0冊の子どもの本を読まなかった理由〉

	読みたかったが読めなかった	読みたいと思わなかった
小学生	25.6%	59.4%
中学生	19.5%	57.0%
高校生	26.2%	57.3%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

※調査期間：2017年6月1・2週

③公立図書館の利用

- ・前回調査同様「0回」が、どの調査対象でも最も多く、大学生を除き、学年が上がるほどその割合が大きくなっている。〈問14〉

〈公立図書館に行く回数が一ヶ月に「0回」の割合の前回調査との比較〉

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	39.6%	34.4%	+5.2
小学6年生	53.0%	53.4%	△0.4
中学3年生	70.8%	72.7%	△1.9
高校2年生	84.6%	67.7%	+16.9
大学生	71.1%	67.0%	△4.1

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、同様の傾向が見られる。

〈【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
本を読むために公共図書館をどのくらい利用するかで、「ほとんど行かない」と答えた割合〉

	男子	女子
小学生	44.8%	32.5%
中学生	60.1%	53.0%
高校生	69.4%	64.9%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

④学校図書館の利用

- ・どの調査対象でも、前回調査時から比較し、「0回」の割合が減っている。学校（大学）図書館の活用が進んでいることがうかがえる。〈問18〉

〈1ヶ月学校（大学）図書館に行く回数が「0回」と答えた割合の前回調査との比較〉

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	1.9%	2.3%	△0.4
小学6年生	4.8%	6.1%	△1.3
中学生	31.2%	48.5%	△17.3
高校生	35.4%	47.5%	△12.1
大学生	20.0%	26.9%	△6.9

- ・どの調査対象でも「公立図書館」よりは「学校（大学）図書館」に行く割合が多く、特に小学生では95%以上の子どもたちが学校図書館を利用している。本に触れる身近な場所である学校図書館の重要性が認められる。〈問14と問18の比較〉

<公立図書館、学校（大学）図書館に行く回数が一ヶ月に「0回」の割合>

	公立図書館	学校（大学）図書館
小学3年生	39.6%	1.9%
小学6年生	53.0%	4.8%
中学3年生	70.8%	31.2%
高校2年生	84.6%	35.4%
大学生	71.1%	20.0%

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、本県の子どもたちは学校図書館に行く割合が高いと思われる。

<【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
本を読むために学校図書館をどのくらい利用するかで、「ほとんど行かない」と答えた割合>

	男子	女子
小学生	20.1%	11.8%
中学生	42.2%	41.5%
高校生	66.3%	62.6%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

⑤電子書籍の利用

- ・電子書籍を利用したことのある割合は学年が上がるほど増加（小3：22.8%、小6：30.8%、中3：44.1%、高：44.9%、大：53.1%）しているが、大学生で約半数を超えるほかは、電子書籍をもっていない者や利用機器を持っていない者も含め、利用したことのない者が多数を占めている。

一方、前回調査と比較して、すべての調査対象で「よく利用している」が増加（小3：+1.2ポイント、小6：+7.1ポイント、中3：+4.5ポイント、高2：+0.6ポイント、大：+4.5ポイント）しており、中でも小学6年生は+7.1ポイントと大きく増加しており、電子メディア機器利用の低年齢化も影響している可能性がある。<問22>

<電子端末（タブレットや携帯電話やスマートフォンなど）を使った電子書籍の利用について「よく利用している」と答えた割合の前回調査との比較>

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	6.2%	5.0%	+1.2
小学6年生	10.4%	3.3%	+7.1
中学3年生	12.7%	8.2%	+4.5
高校2年生	14.1%	13.5%	+0.6
大学生	14.5%	10.0%	+4.5

- ・紙の本と電子書籍のどちらを利用したいかについては、前回調査同様、「紙の本を利用したい」が最も高く、また、前回調査時よりその割合は増えている。「どちらかといえば紙の本を利用したい」とあわせると、どの調査対象でも5割を超える。<問24>

<紙の本と電子書籍のどちらを利用したいかについて「紙の本を利用したい」「どちらかといえば紙の本を利用したい」と答えた割合の前回調査との比較>

	今回 (H29年度)	前回 (H24年度)	差
小学3年生	62.5%	57.0%	+5.5
小学6年生	57.7%	43.0%	+14.7
中学生	51.1%	44.1%	+7.0
高校生	61.8%	49.6%	+12.2
大学生	67.5%	60.6%	+6.9

⑥読書習慣（高校生、大学生のみの質問）

- ・今の読書習慣はいつの時期から始まっているかについて、どちらの調査対象でも「小学生」が最も多く5割程度を占める（高：51.6%、大：48.3%）。「乳幼児期」を含めると6割を超える（高：71.8%、大：62%）。幼い頃からの習慣化が重要だと考えられる。<問25>
- ・現在の読書習慣に影響を与えたものについて、どちらの調査対象でも「学校での一斉読書（朝読書）」の割合が最も多く3割を超える（高：35.8%、大：30.3%）。また、「家の人の働きかけ」が2番目に多く（高：15.9%、大：25.2%）、「学校の先生や司書の働きかけ」（高：13.3%、大：18.5%）「友だち」（高：13.7%、大：10.9%）との回答も一定割合存在する。身近な存在が読書習慣の定着に重要な役割を果たすものと思われる。
<問26>

⑦保護者の読書習慣

- ・家庭で大人が読書をしているかについて、どの調査対象でも「たまに読んでいる」が最も多く、「よく読んでいる」とあわせると概ね5割程度以上の保護者が家庭で読書をしている。
<問27>
- ・一方で「読んでいるのを見たことがない」が、どの調査対象でも2割程度存在している。
<問27>

平成29年度 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果（幼児保護者対象）

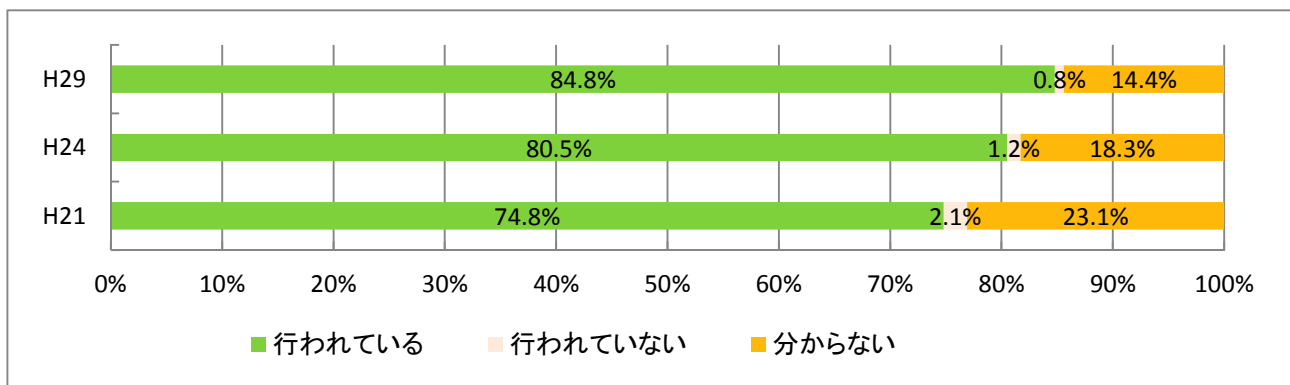
1 調査対象

	保育所・幼稚園・認定こども園保護者
調査対象園数	20
アンケート回収枚数	364

2 調査結果

問1 あなたの市町村では、ブックスタート事業（6ヶ月検診時等に絵本を手渡す事業）が行われていますか。

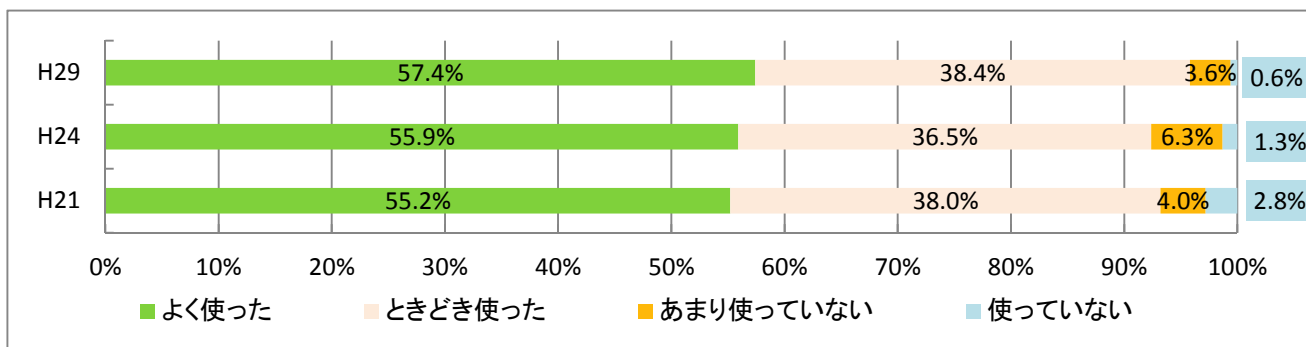
※有効回答数：361



- ・平成21年度以降全市町村で実施されているブックスタート事業の認知度は84.8%であり、前回調査より4.3ポイント増加した。

問2 問1で「行われている」と答えた方にお聞きします。ブックスタート事業で配られた絵本は、家庭で読み聞かせ等に活用されましたか。

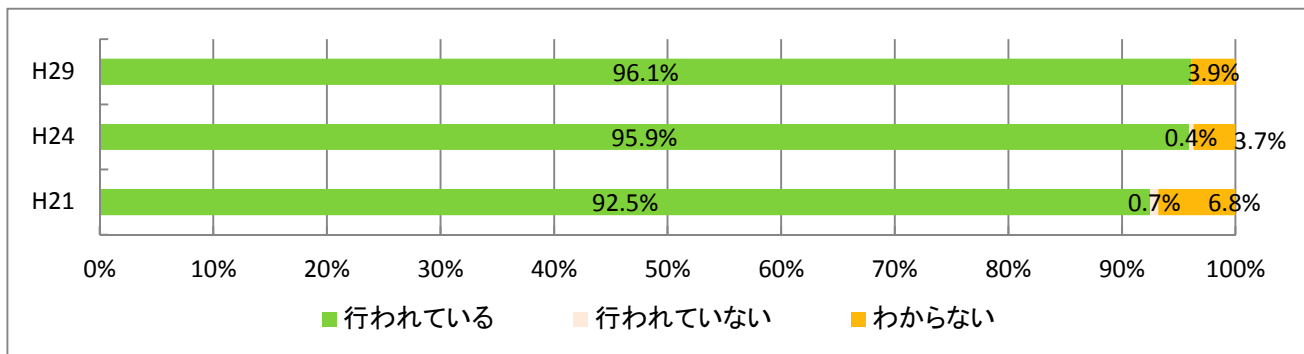
※有効回答数：305



- ・前回調査と比較し「よく使った」「ときどき使った」の割合がともに増加し、あわせて95.8%（前回92.4%）と多数を占めた。ブックスタート事業が家庭での読み聞かせの一助になっていることがうかがえる。

問3 あなたのお子さんが通われている保育所・幼稚園・認定こども園では、読み聞かせやおはなし会が行われていますか。

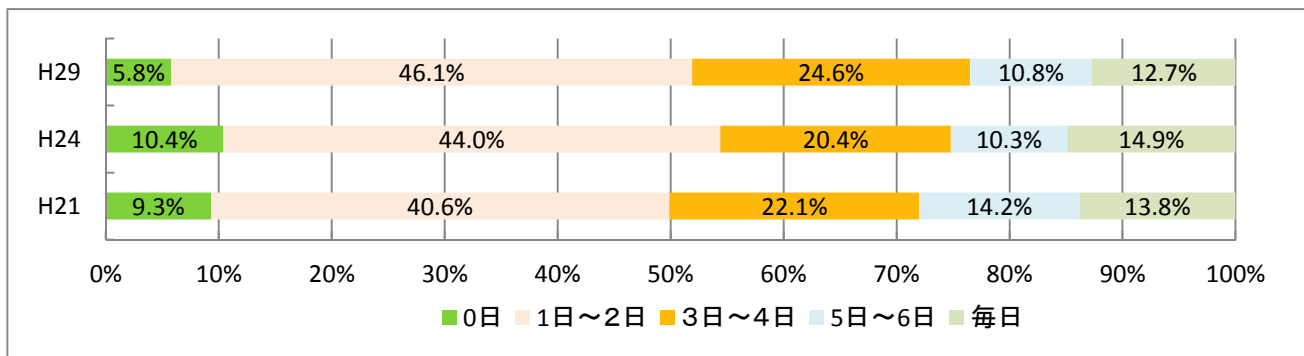
※有効回答数：363



・「行われている」は96.1%であり、前回調査同様にほとんどの保育所等で読み聞かせが行われている。

問4 あなたの家では、1週間にどれくらいお子さんに絵本などの読み聞かせをしたり一緒に本を読んだりしますか。

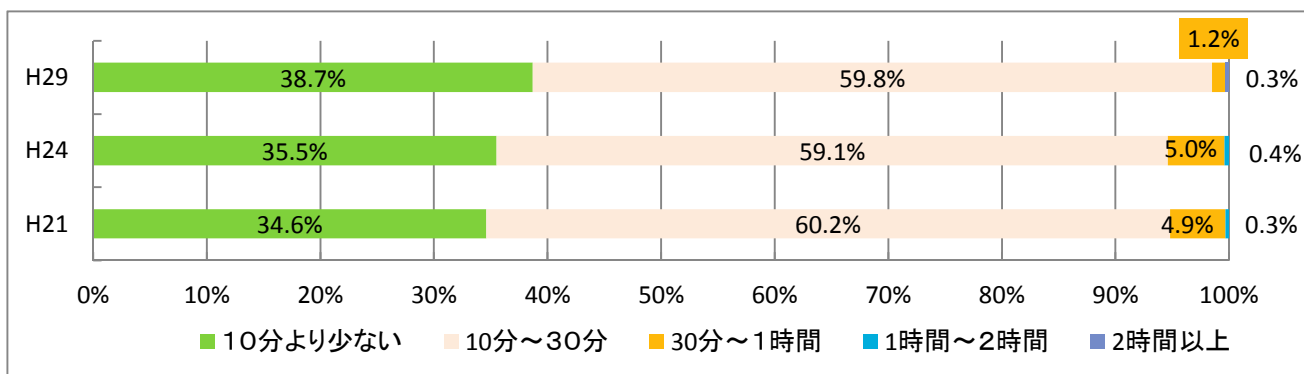
※有効回答数：362



・「0日」が前回調査の10.4%から5.8%と半分程度に減少したほか、週3～4日以上実施する割合が48.1%（前回調査45.6%）と増加している。

問5 問4で「読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりする」と答えた方にお聞きします。1日にお子さんに本を読んであげる（一緒に読む）時間はどれくらいですか。

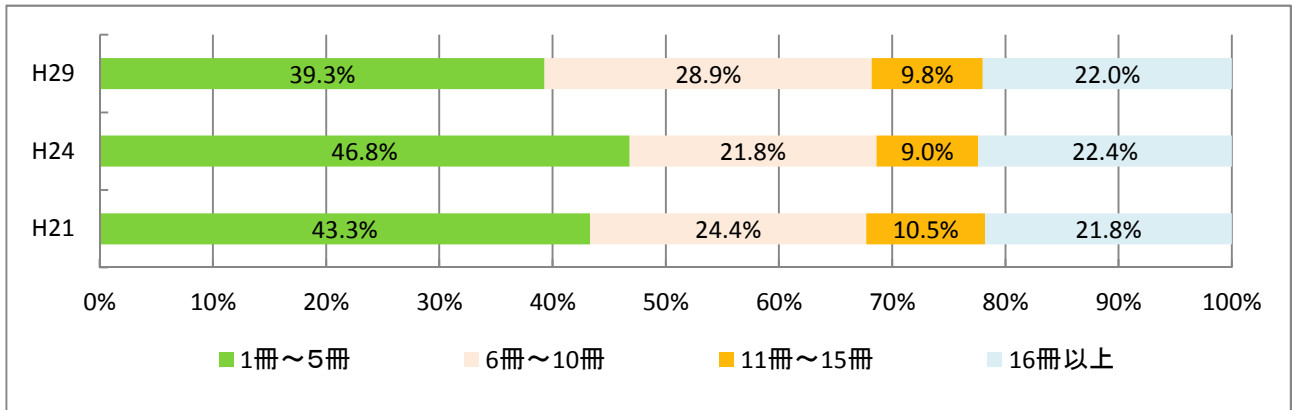
※有効回答数：336



・前回調査と同様の傾向で、読み聞かせ時間は30分未満が98.5%と多数を占めた。「10分より少ない」が増加する一方、30分以上は減少している。

問6 問4で「読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりする」と回答した方にお聞きします。この1ヶ月間に何冊くらい読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりしましたか。

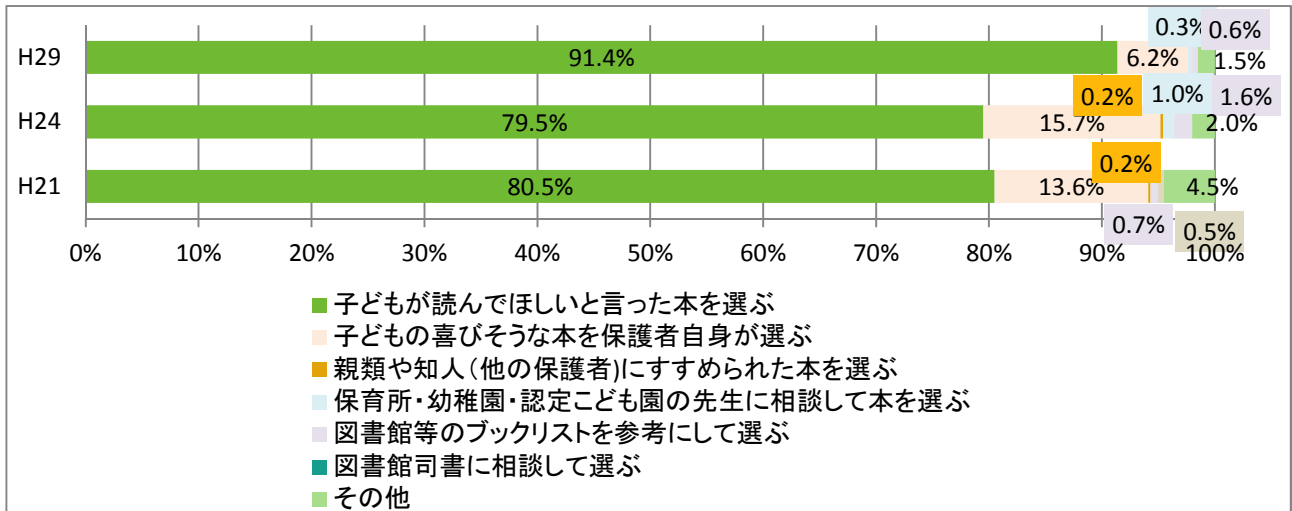
※有効回答数：336



・前回調査とほぼ同様で、1か月に10冊以内が約7割となっている。

問7 問4で「読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりする」と答えた方にお聞きします。あなたはお子さんに読んであげる本をどのように選んでいますか。

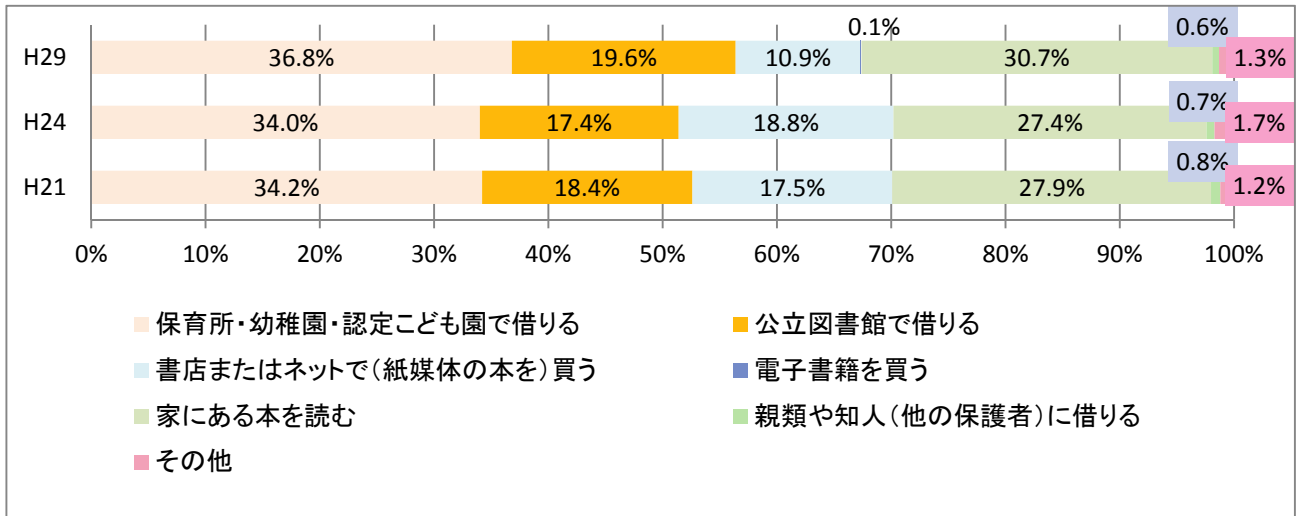
※有効回答数：325



・前回調査同様「子どもが読んでほしいと言った本を選ぶ」が最も多く、その割合は前回より大きく増えた。(今回91.4%、前回79.5%)

問8 問4で「読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりする」と答えた方にお聞きします。あなたの家では、読み聞かせをする本や一緒に読む本をどのように準備していますか。(複数回答可)

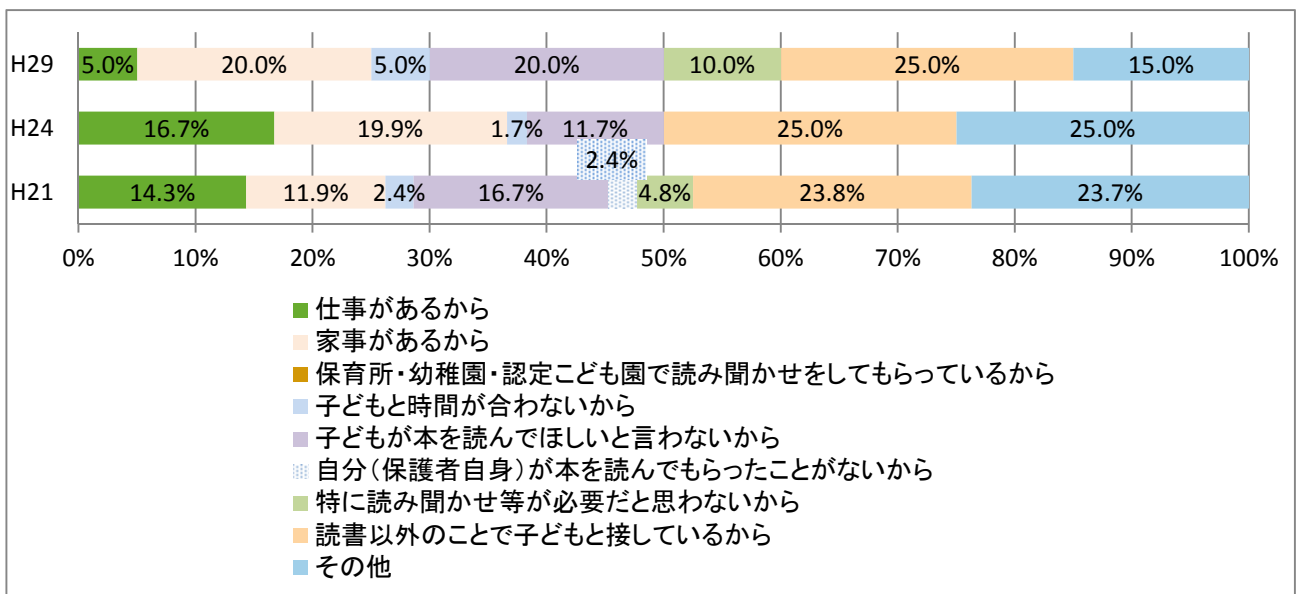
※有効回答数：830



・前回調査同様「保育所・幼稚園・認定こども園で借りる」が最も多く、また、その割合も増えている(今回36.8%、前回34.0%)。また、「公立図書館で借りる」も2番目に多く、両者をあわせると5割を超える。

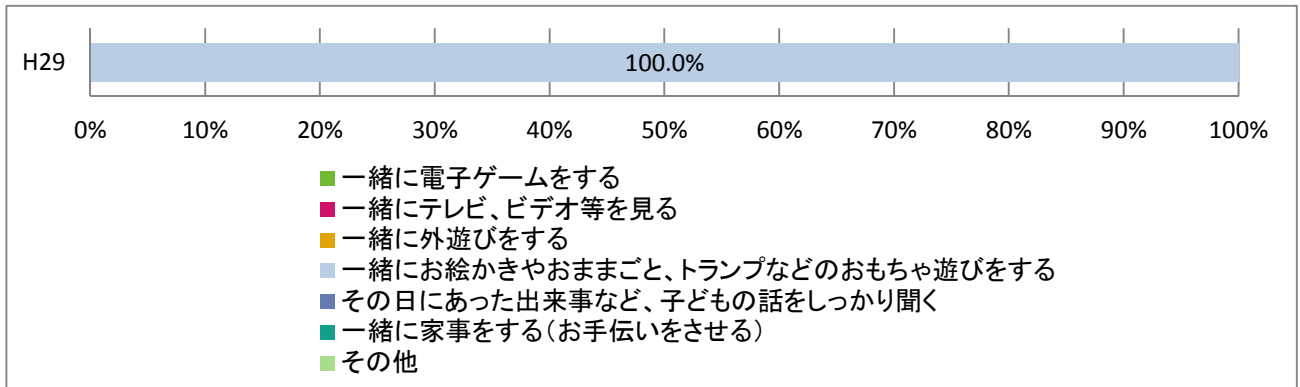
問9 問4で「0日」と答えた方にお聞きします。お子さんに読み聞かせをしたり一緒に本を読んだりしないのはなぜですか。

※有効回答数：20(標本数が50未満のため参考値として示す。また、分析対象から除く。)



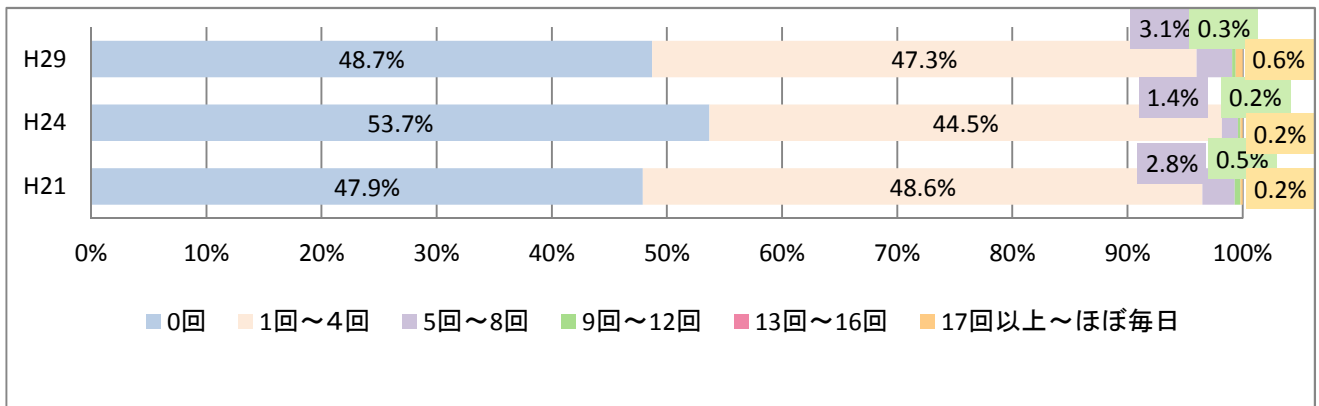
問10 問9で「読書以外のことで子どもと接しているから」と答えた方にお聞きします。どういったことでお子さんと接していますか。

※有効回答数：4（標本数が50未満のため参考値として示す。また、分析対象から除く。）



問11 あなたは、1ヶ月にどれくらい公立図書館に行きますか。

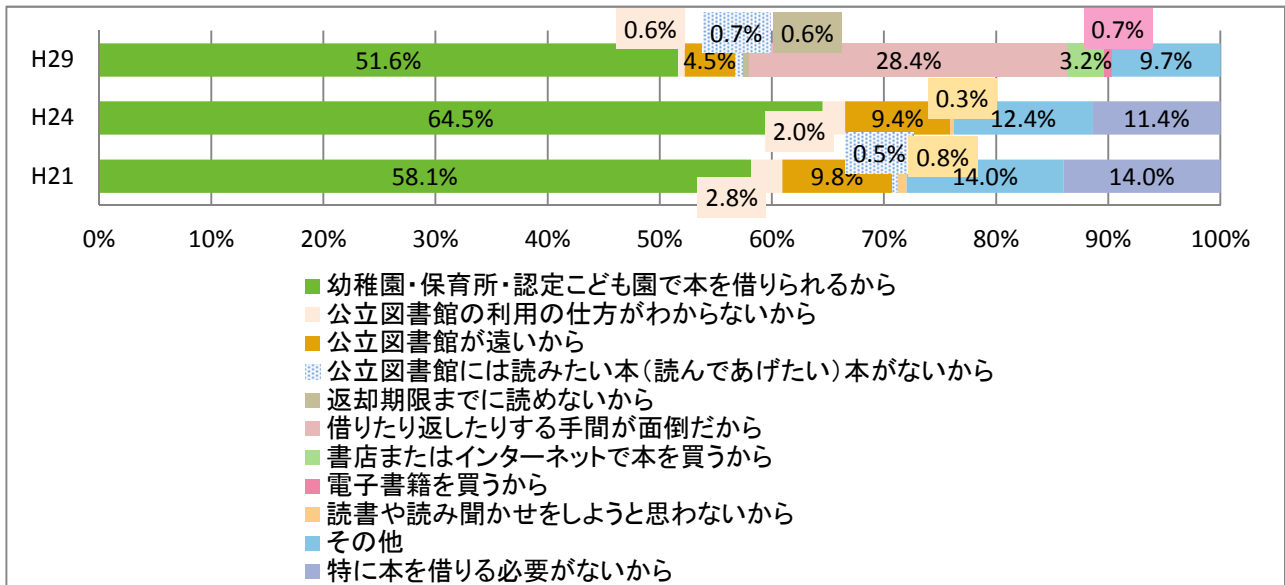
※有効回答数：359



・前回調査より「0回」が5ポイント減少したものの、依然として約半数を占めている。

問 1 2 問 1 1 で「0 回」と答えた方にお聞きします。公立図書館に行かないのはどうしてですか。

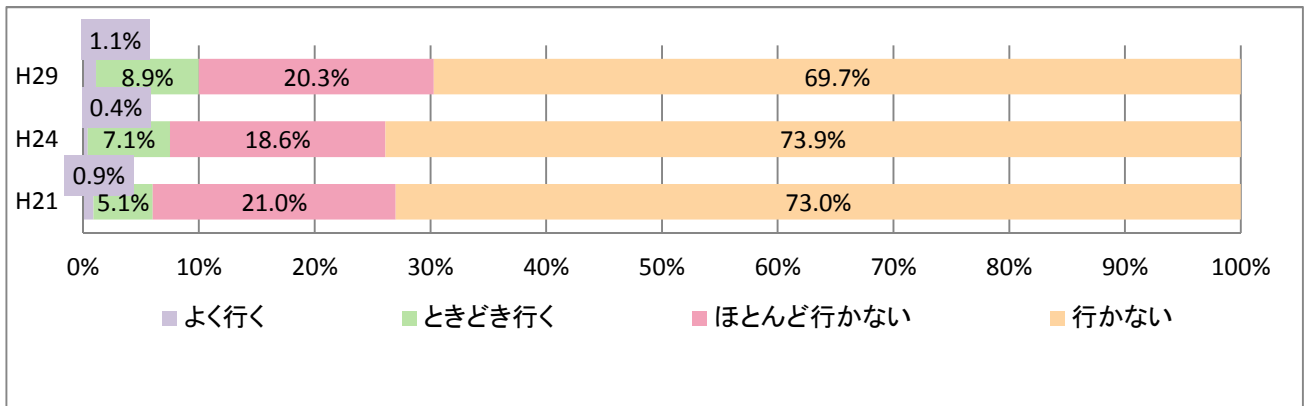
※有効回答数：155



- ・前回調査同様「幼稚園・保育所・認定こども園で本を借りられるから」が最も多い(今回51.6%、前回64.5%)。
- ・今回調査から選択肢に加えた「借りたり返したりする手間が面倒だから」が28.4%と、比較的多い。

問 1 3 あなたは、お子さんと一緒に公立図書館で行われる「おはなし会」に行くことがありますか。

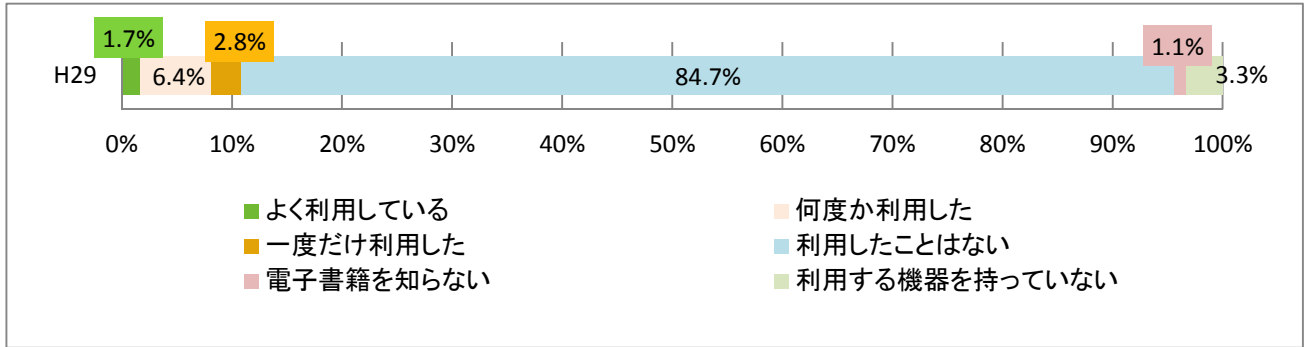
※有効回答数：360



- ・前回調査と比較し「よく行く」「ときどき行く」が若干増えたが(今回10%、前回7.5%)、依然として「ほとんど行かない」「行かない」があわせて9割を占める。

問14 あなたは、お子さんに読み聞かせをする際に電子端末（タブレットやスマートフォンなど）を利用したことがありますか。

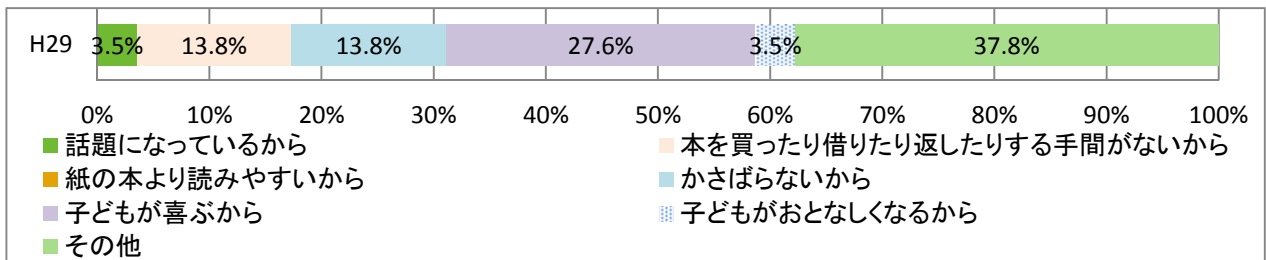
※有効回答数：360



・利用したことがあるのは10.9%のみであり、電子メディア機器の普及が著しい中でも、紙の本での読み聞かせが大多数であることがわかる。

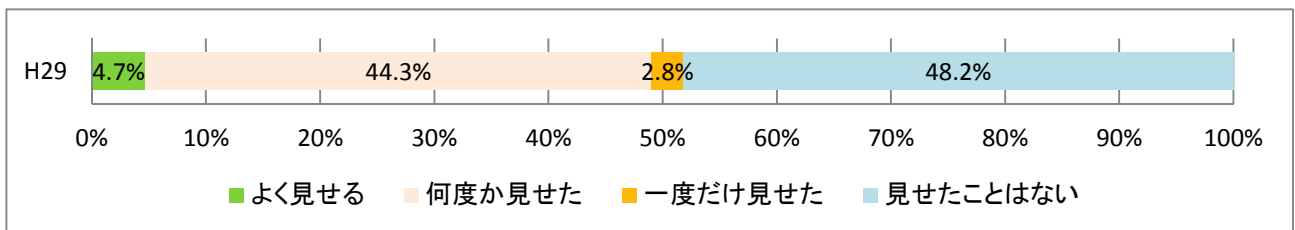
問15 問14で「よく利用している」「何度か利用した」と答えた方にお聞きします。お子さんに読み聞かせをする際に電子端末を利用する理由は何ですか。

※有効回答数：29（標本数が50未満のため参考値として示す。また、分析対象から除く。）



問16 あなたは音の出る本や読み聞かせ動画をお子さんに見せたことがありますか。

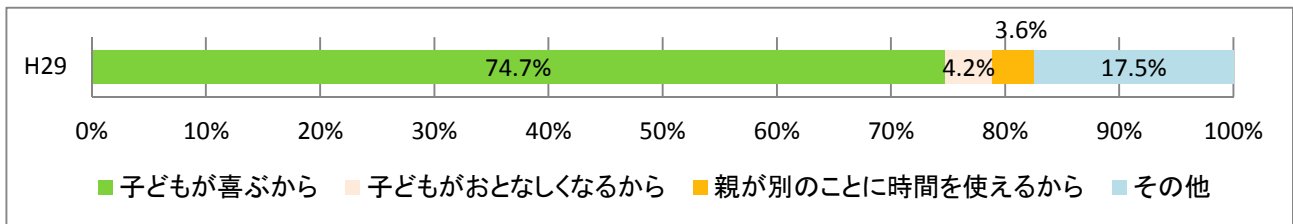
※有効回答数：359



・「見せたことはない」と「よく見せる」「何度か見せた」がそれぞれ約半数ずつを占める結果となった。

問17 問16で「よく見せる」「何度か見せた」と答えた方にお聞きします。お子さんに音の出る本や読み聞かせ動画を見せる理由は何ですか。

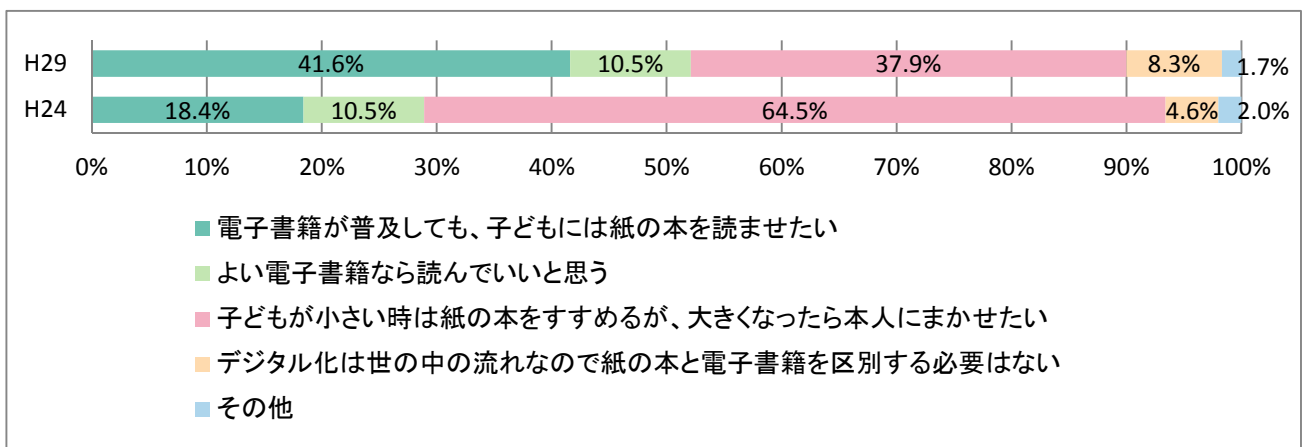
※有効回答数：166



- ・「子どもが喜ぶから」が最も多く、74.7%。子どもは音や映像などの刺激に興味を引かれる傾向にあると考えられる。
- ・「その他」の回答には、「赤ちゃんの時に読み聞かせ動画や音の出る絵本が子どもの発達によいと聞いた」「知育のため」等がみられた。

問18 電子書籍と子どもたちの読書についてどのように思いますか。

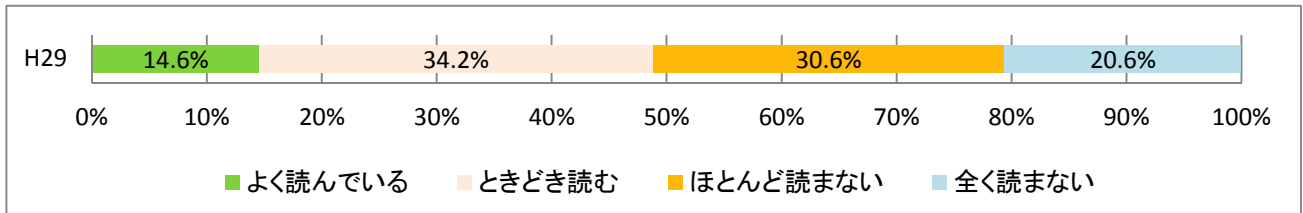
※有効回答数：351



- ・前回調査から「電子書籍が普及しても、子どもには紙の本を読ませたい」が大幅に増えた（今回41.6%、前回18.4%）。電子メディア機器が急速に普及する中でも、紙の本の良さを感じる保護者も多い。一方で、「デジタル化は世の中の流れなので紙の本と電子書籍を区別する必要はない」も増加している（今回8.3%←前回4.6%）。

問19 あなたはお子さんに読み聞かせをしてあげる以外に、自分自身で読書をしますか。

※有効回答数：363

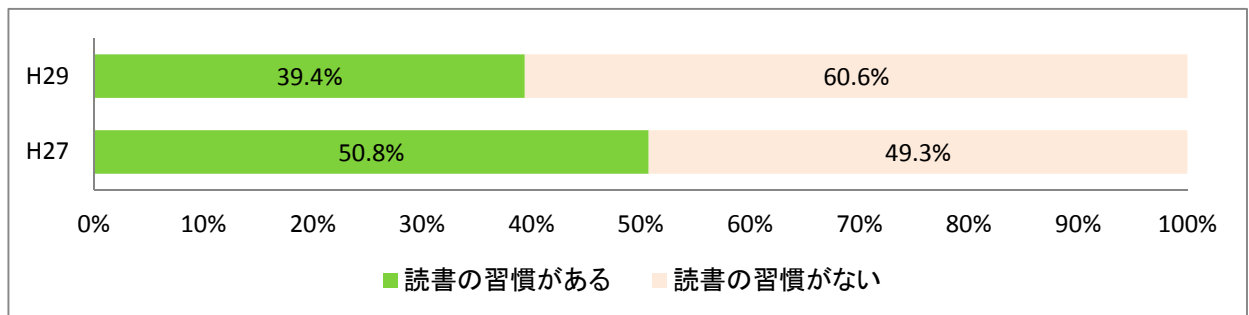


・「よく読む」「ときどき読む」と「ほとんど読まない」「全く読まない」が約半数ずつであった。

<参考>株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017年版）から抜粋
読書習慣の有無

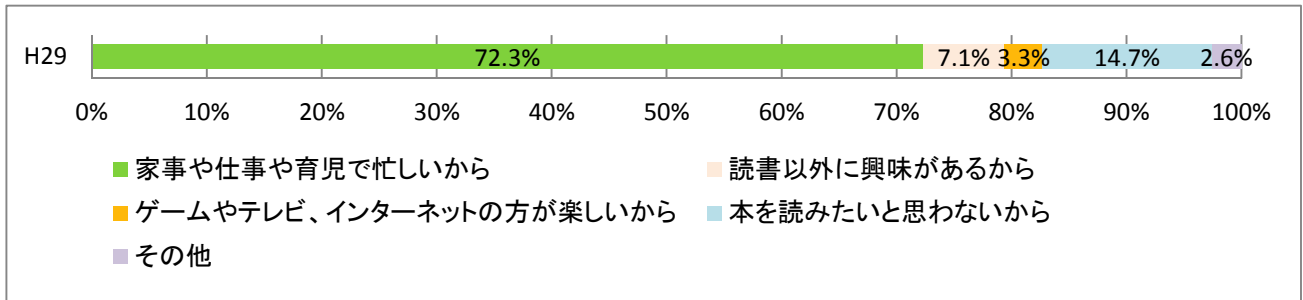
※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効回答数1,200）

※調査期間：平成29年10月18日～10月19日



問20 問19で「ほとんど読まない」「全く読まない」と答えた方にお聞きします。あなた自身が読書をしないのはなぜですか。

※有効回答数：184

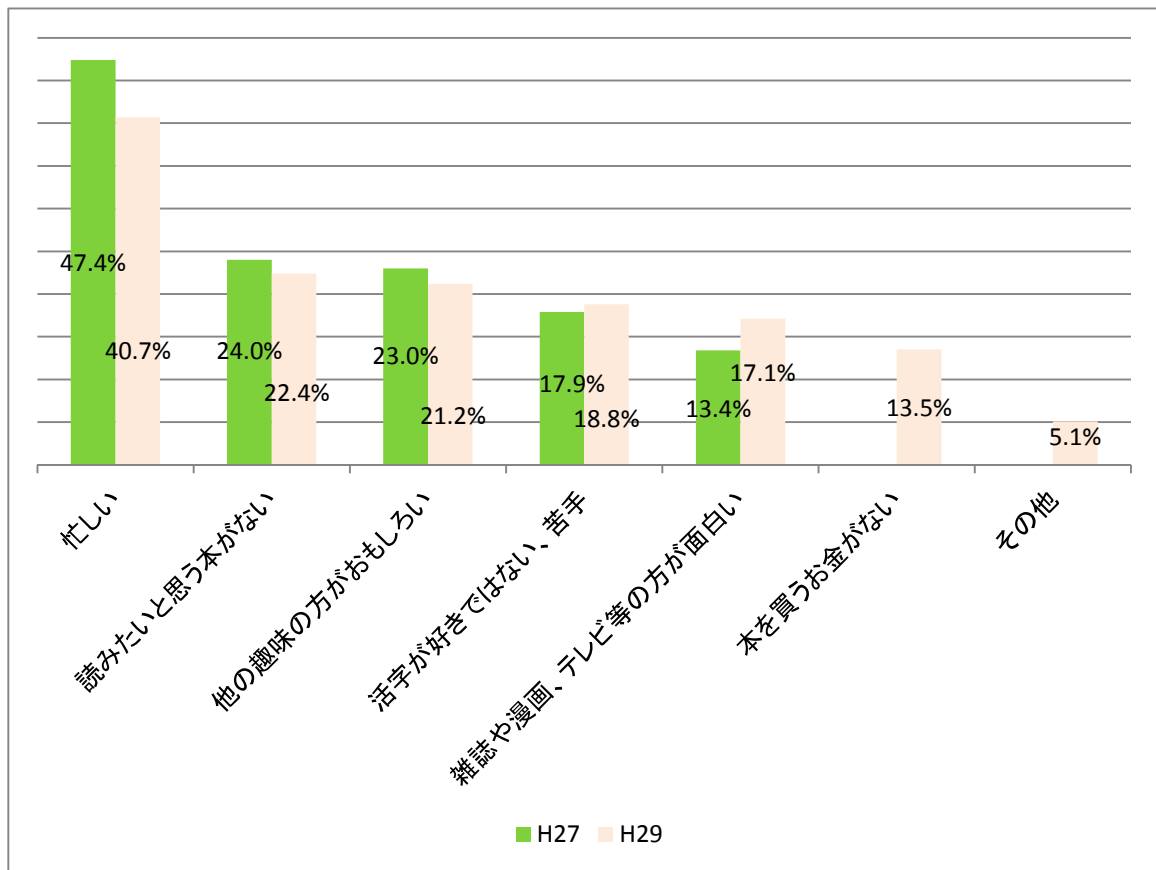


・「家事や仕事や育児で忙しいから」が最も多く72.3%。

<参考>株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017年版、2015版）から抜粋 読書をしない理由

※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効回答数1,200）

※調査期間：平成29年10月18日～10月19日



平成29年度 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果（児童、生徒等対象）

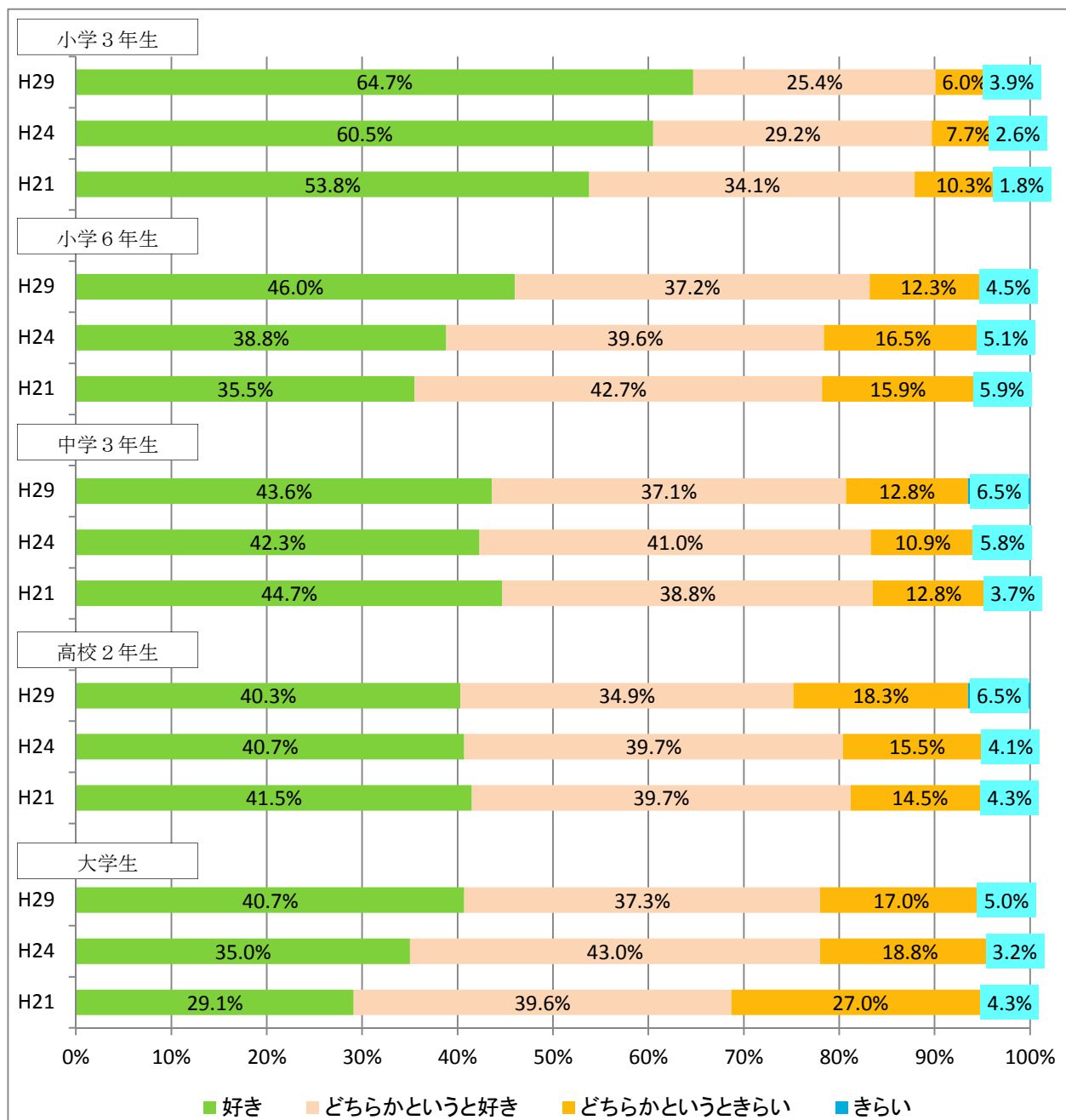
1 調査対象

	小学校 3年生	小学校 6年生	中学校 3年生	高等学校 2年生	大学生	合計
調査対象校数	23	23	18	8	4	76
アンケート 回収枚数	706	746	606	279	241	2,578

2 調査結果

問1 あなたは、読書が好きですか。

※有効回答数 小3：700、小6：739、中3：601、高2：278、大：241

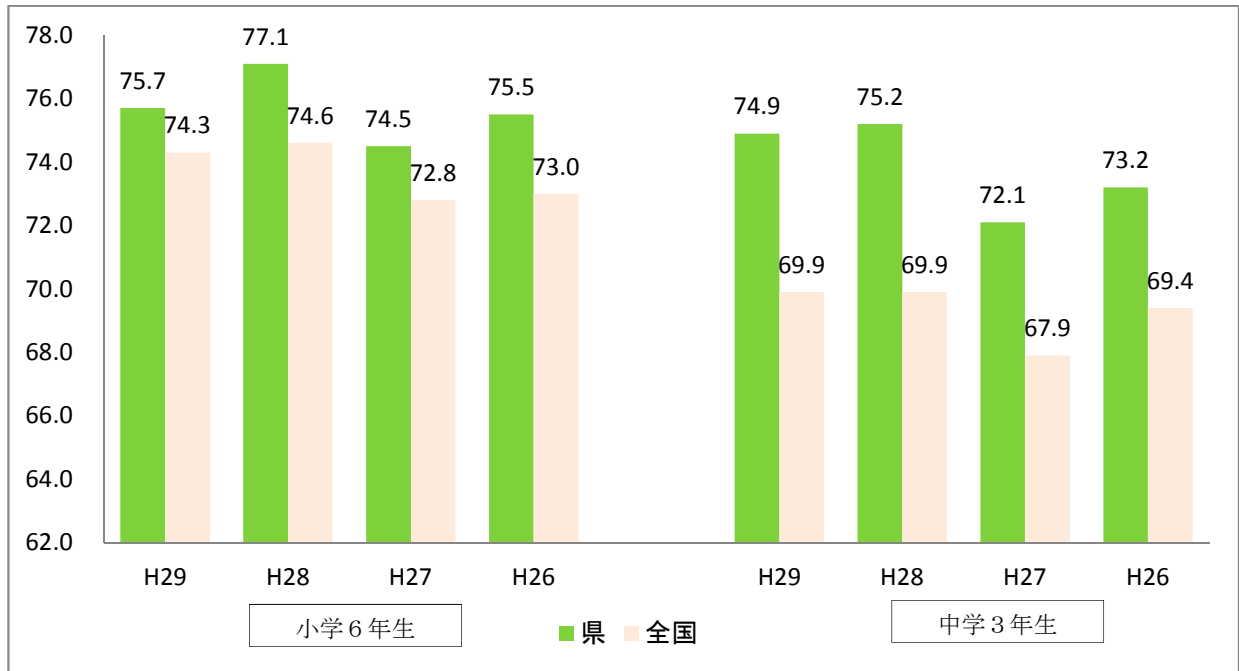


- ・前回調査と同様の傾向であり、大学生を除き、学年が上がると読書が「好き」「どちらかという好き」の割合は減少している。
- ・小学生では、読書が「好き」「どちらかという好き」が前回調査から増加しているが（小3：+0.4ポイント、小6：+4.8ポイント）、中学生・高校生では減少し（中：△2.6ポイント、高：△5.2ポイント）、大学生では横ばいとなっている。
- ・高校2年生以外のすべての調査対象で、読書が「好き」が増加している（小3：+4.2ポイント、

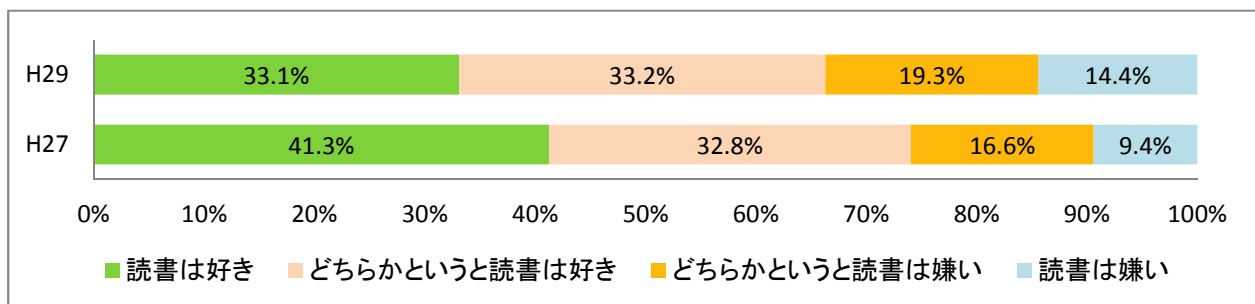
小6：+7.2ポイント、中3：+1.3ポイント、大：+5.7ポイント）一方で、小学6年生以外のすべての調査対象で「嫌い」が増加（小3：+1.3ポイント、中3：+0.7ポイント、高：+2.4ポイント、大：+1.8ポイント）しており、二極化が見られる。

＜参考＞全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問調査結果（平成26年度～平成29年度実施）から抜粋

「読書は好きだ」という項目に対する肯定的回答の割合



＜参考＞株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017年版）から抜粋
読書の好感度

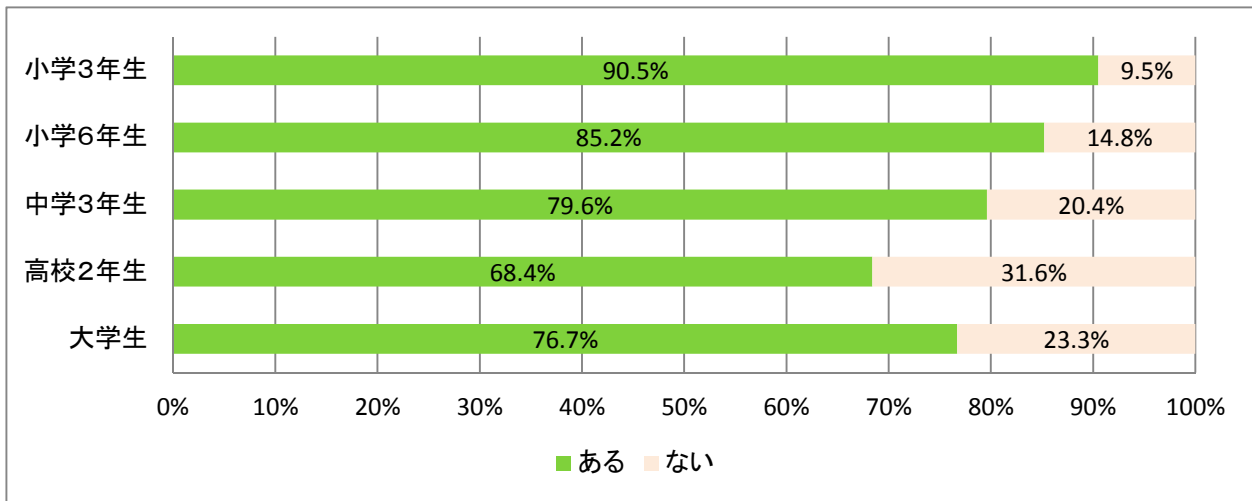


※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効回答数1,200）

※調査期間：平成29年10月18日～10月19日

問2 あなたは好きな本がありますか。

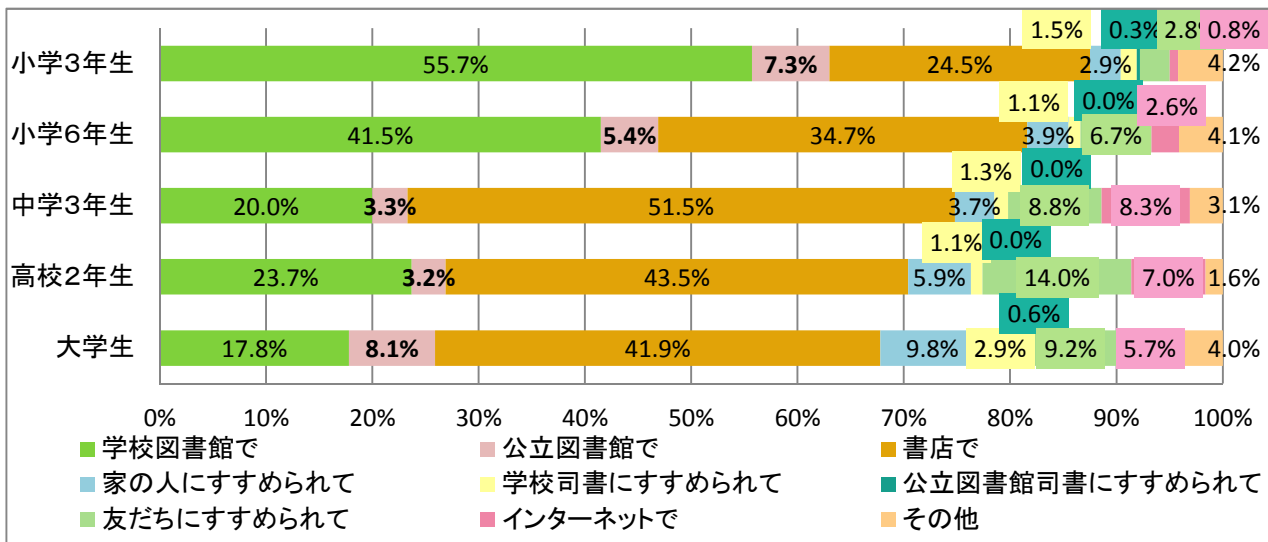
※有効回答数 小3：694、小6：735、中3：592、高2：275、大：236



- ・どの調査対象においても「(好きな本が) ある」の割合が高いが、大学生を除き、学年が上がるほど減少している。

問3 問2で「ある」と答えた方にお聞きます。あなたは好きな本にどこで(どのように)出会いましたか。

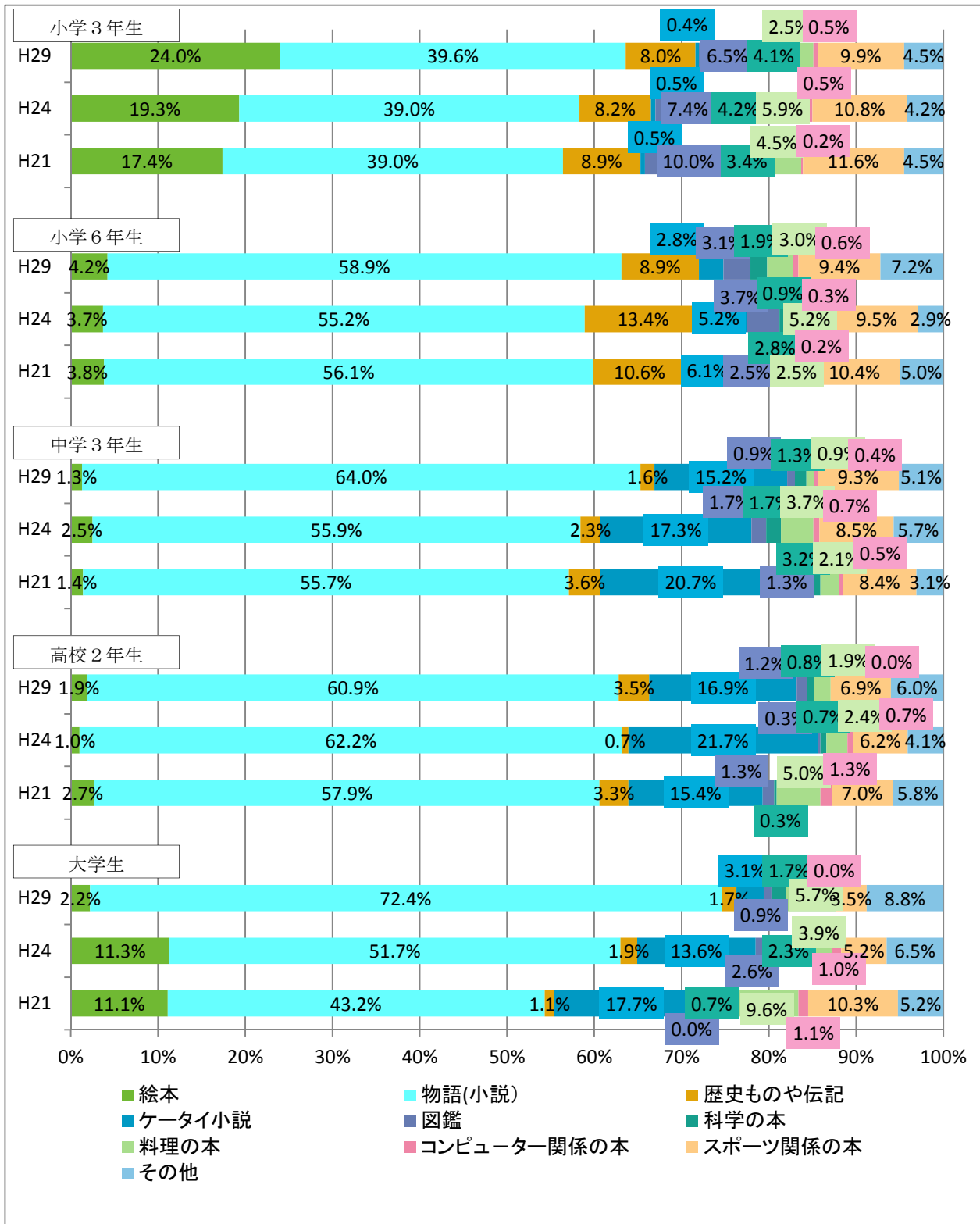
※有効回答数 小3：616、小6：612、中3：456、高2：186、大：174



- ・小学生では「学校図書館で」好きな本に出会う割合が高い。子どもだけの行動範囲が限られるため、身近な場所で本に触れる機会が多いと想定される。
- ・中学生以上になると「書店で」好きな本に出会う割合が高くなっていく。子どもだけの行動範囲が広がり、一人で書店に行くことができる機会が増えることが理由として推測される。
- ・「家の人にすすめられて」「友だちにすすめられて」が一定程度存在し、学年が上がるほど増える傾向がある (小6：10.6%、中：12.5%、高：19.9%、大：19%)。

問4 あなたは、どんな本をよく読みますか。

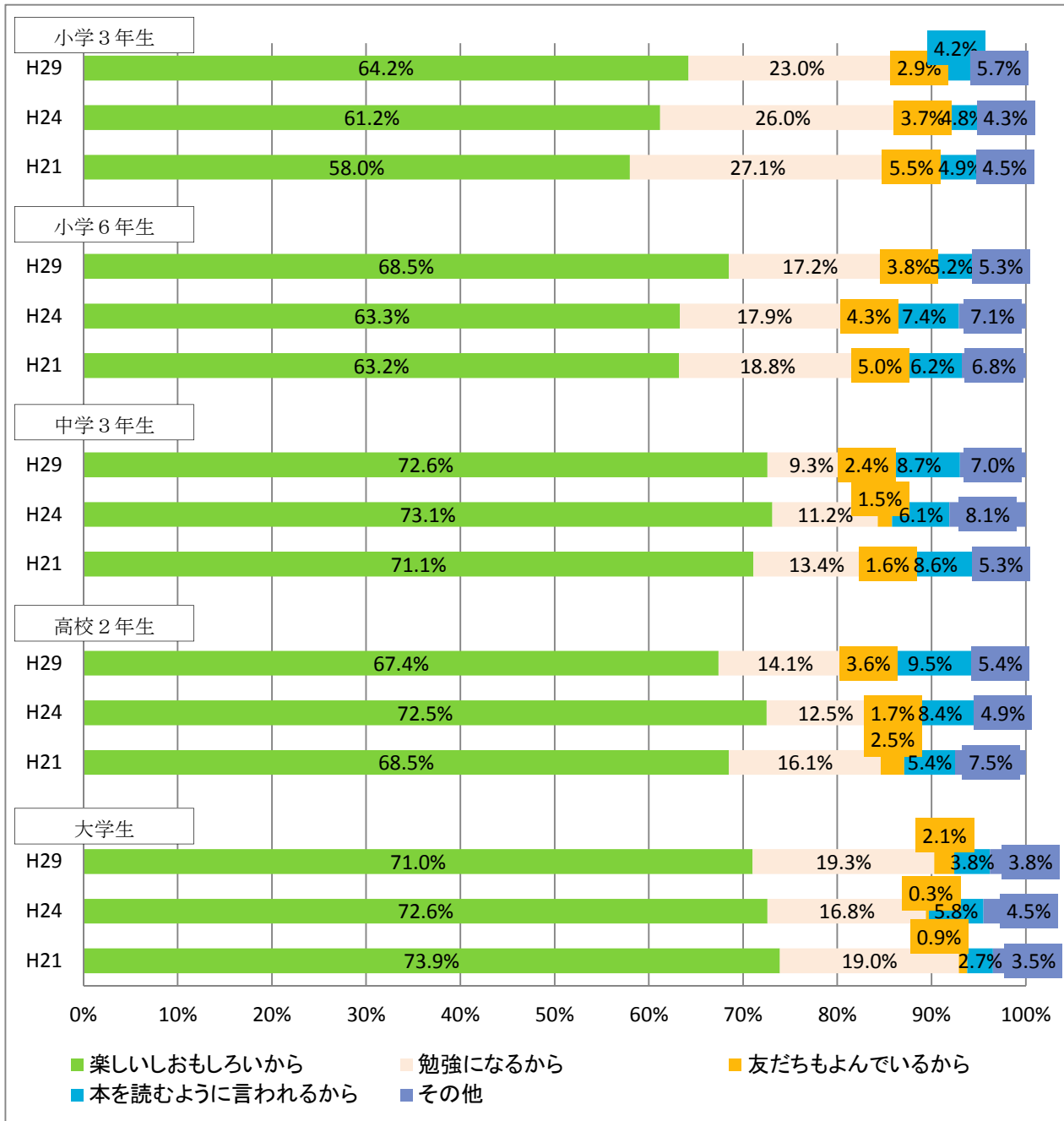
※有効回答数 小3：566、小6：642、中3：558、高2：261、大：228



- ・すべての調査対象において「物語（小説）」が最も高く、その傾向は前回調査と変わらない。
- ・中学生、高校生では、他の調査対象と比較し「ケータイ小説」が多い。個人でスマートフォンを所有する時期と重なることが背景にあると思われる。

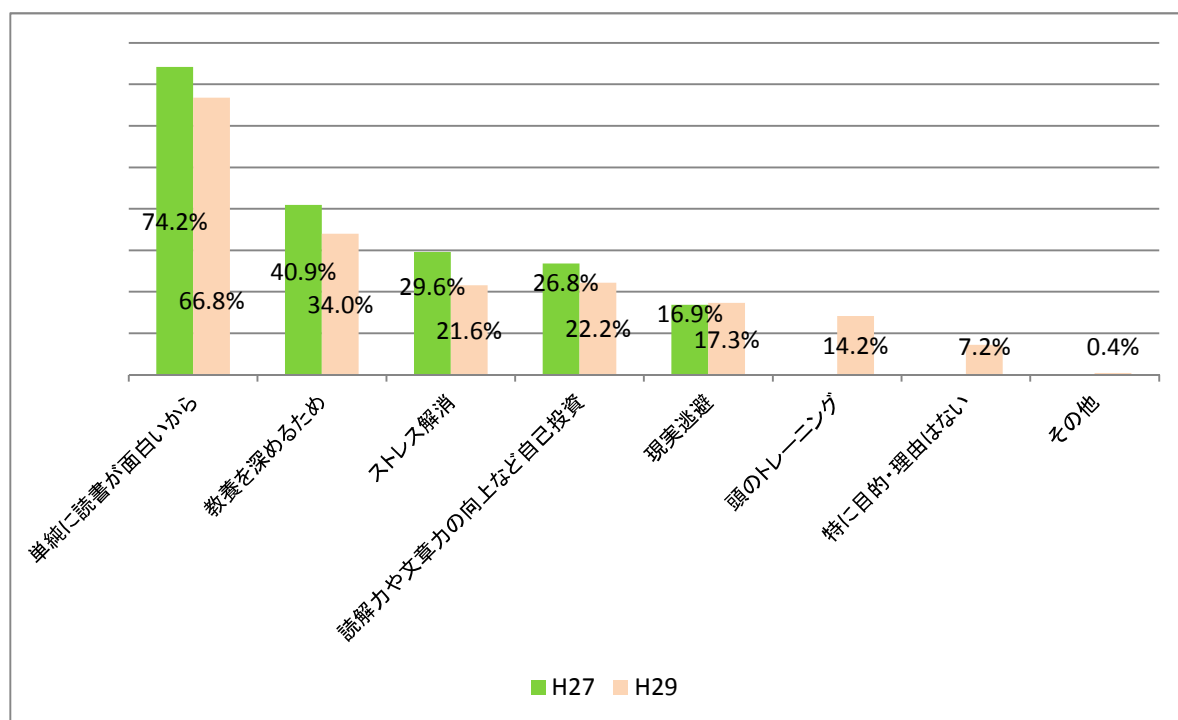
問5 本を読むのはどうしてですか。

※有効回答数 小3：696、小6：729、中3：594、高2：276、大：238



・すべての調査対象において「楽しいしおもしろいから」が最も高く、その傾向は前回調査と変わらない。

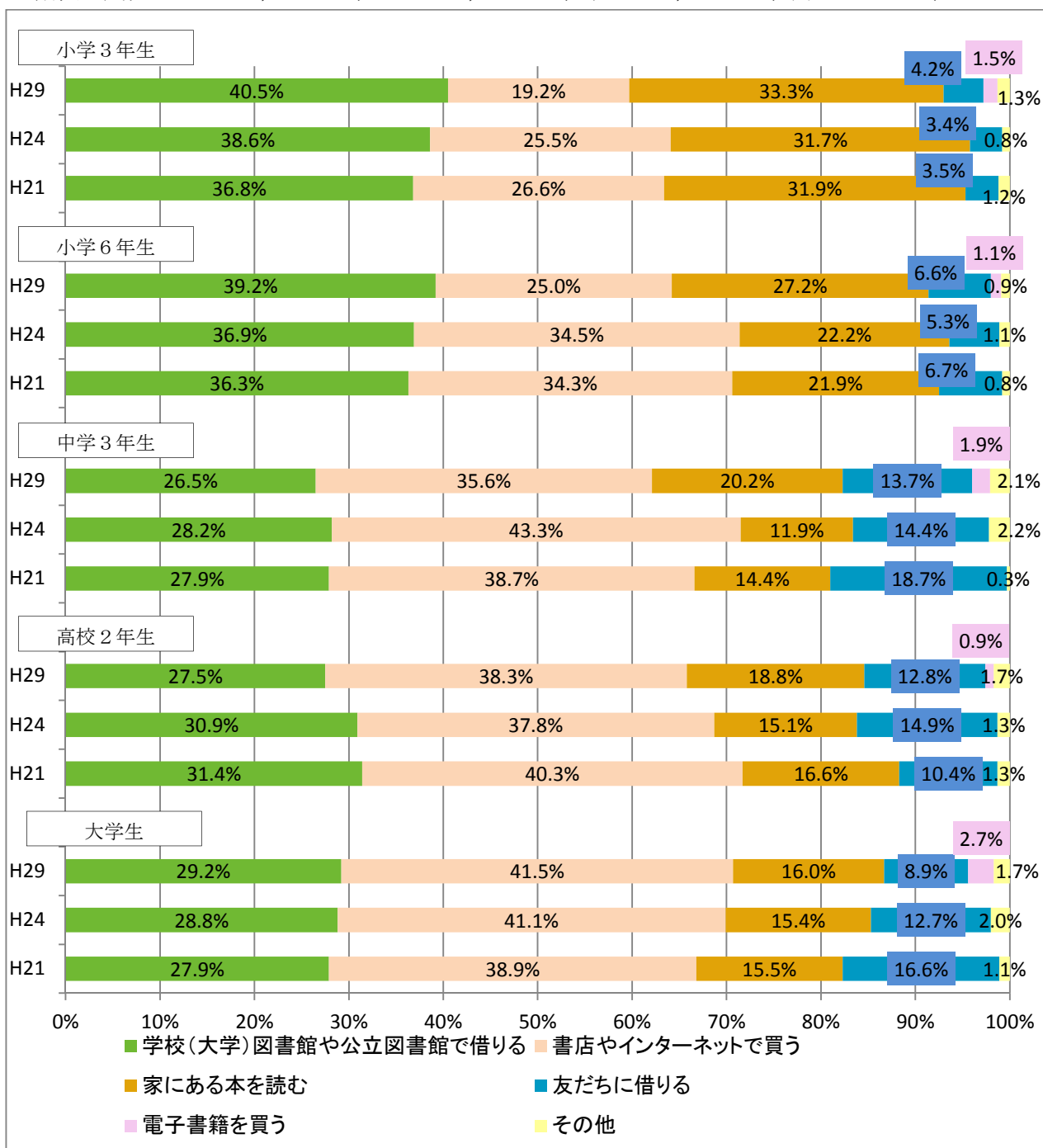
＜参考＞株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017年版）から抜粋
読書の好感度



※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効回答数1,200）
※調査期間：平成29年10月18日～10月19日

問6 あなたは、本をどのように準備していますか。(複数回答可)

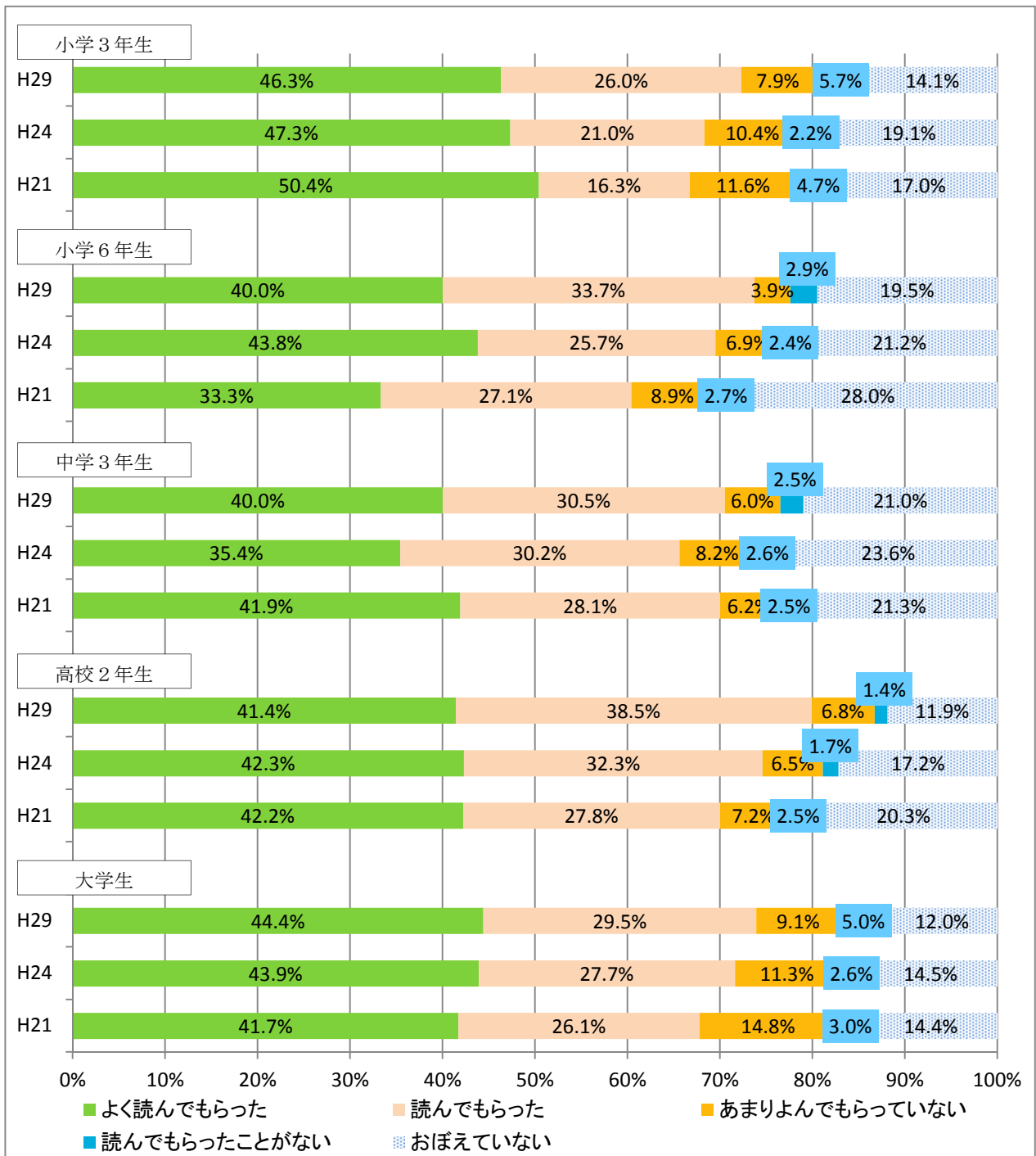
※有効回答数 小3：1,266、小6：1,387、中3：1,050、高2：447、大：407



- ・前回調査同様、小学生では「学校図書館や公立図書館で借りる」が最も多い(小3：40.5%、小6：39.2%)。
- ・前回調査同様、中学生以上になると、「書店やインターネットで買う」が最も多くなる(中：35.6%、高：38.3%、大：41.5%)。子どもたち自身の行動範囲の広がりや、スマートフォンの所有、また、図書館にある本と読みたい本が違うことや、自分の手元に本を置いておきたい等も理由として考えられる。

問7 あなたは、小さい頃、家の人に絵本等を読んでもらったことがありますか。

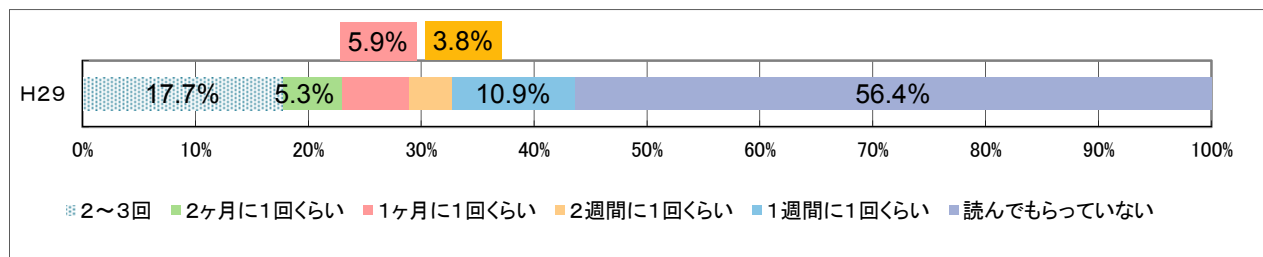
※有効回答数 小3：700、小6：738、中3：600、高2：278、大：241



・どの調査対象でも「よく読んでもらった」「読んでもらった」が7割を超える。また、前回調査よりその割合は高くなった（小3：+4ポイント、小6：+4.2ポイント、中3：+4.9ポイント、高2：+5.3ポイント、大：+2.3ポイント）。家庭における読み聞かせが普及していると思われる。

問8 (小学3年生のみの設問) あなたは3年生になってから、家の人に絵本などを読んでもらいましたか。

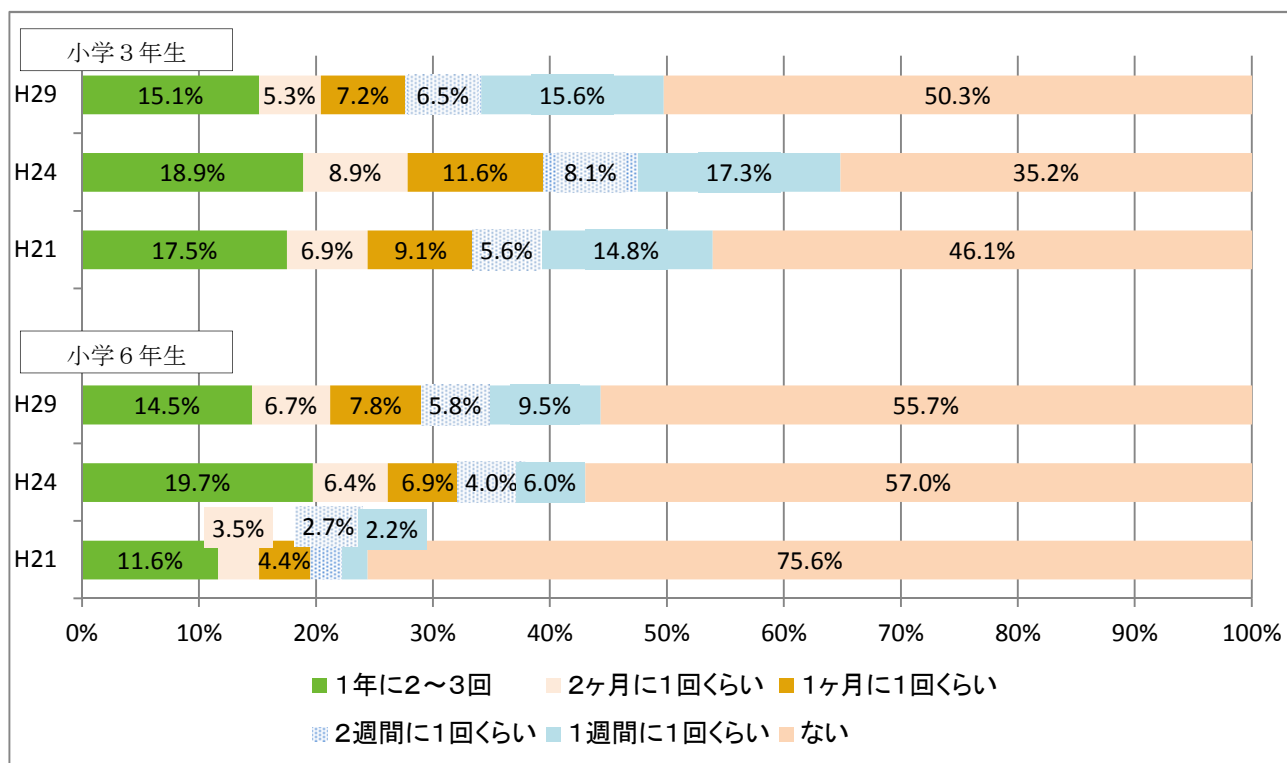
※有効回答数 小3：690



・小学3年生になると、6割弱が家庭で読み聞かせをしてもらっていない。自分で本を読む力がついてきていることが背景にあると考えられる。

問9 (小学生のみの設問) あなたの家では、家の人と同じ本を読んだり、違う本を同じ時間に読んだりすることはありますか。

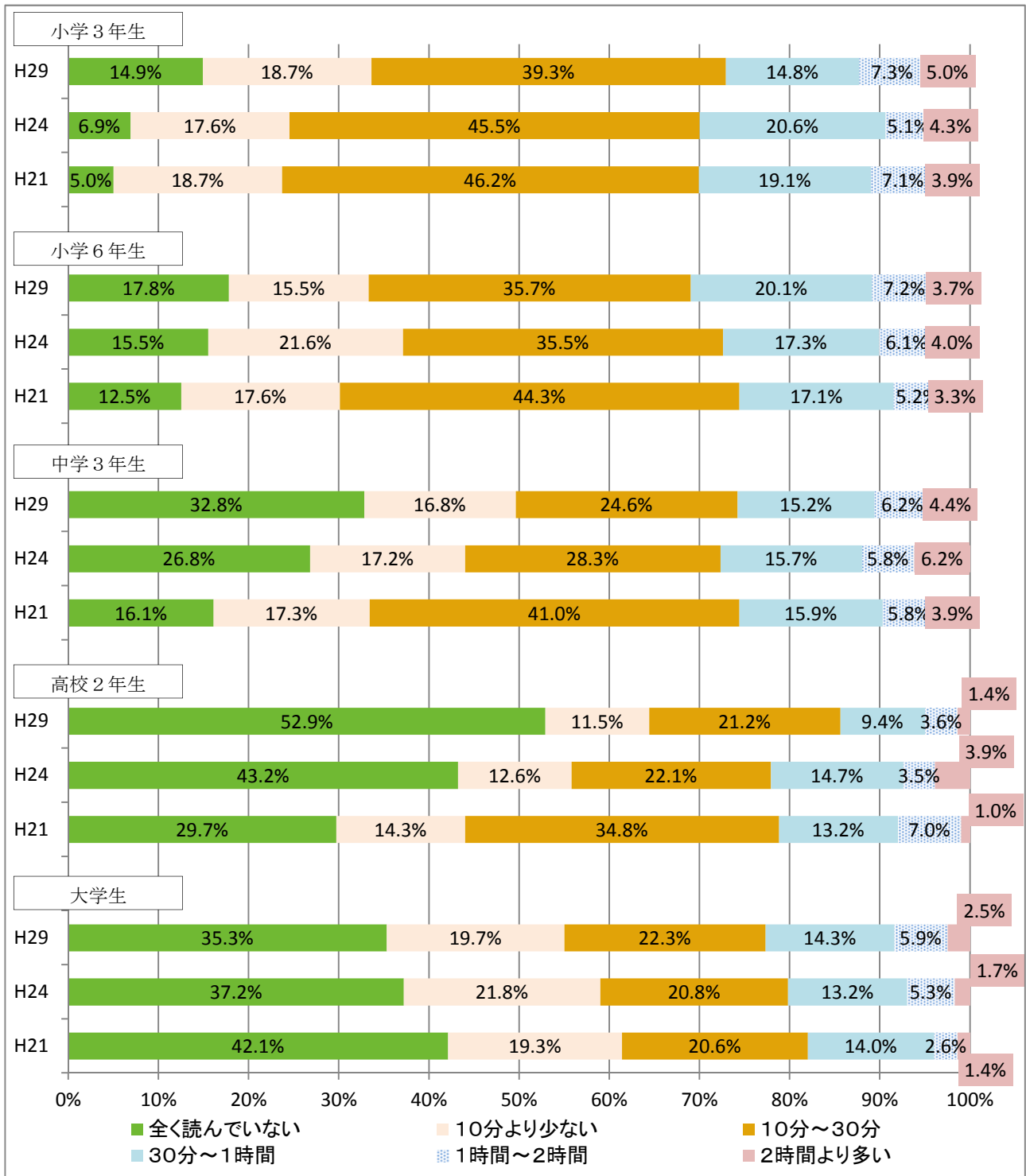
※有効回答数 小3：694、小6：729



・どちらの調査対象も「家読」の習慣がない割合が半数を超える。自分で読む力がついてきていることや、保護者が家事や仕事等で子どもたちと時間が合わないことが理由として考えられる。

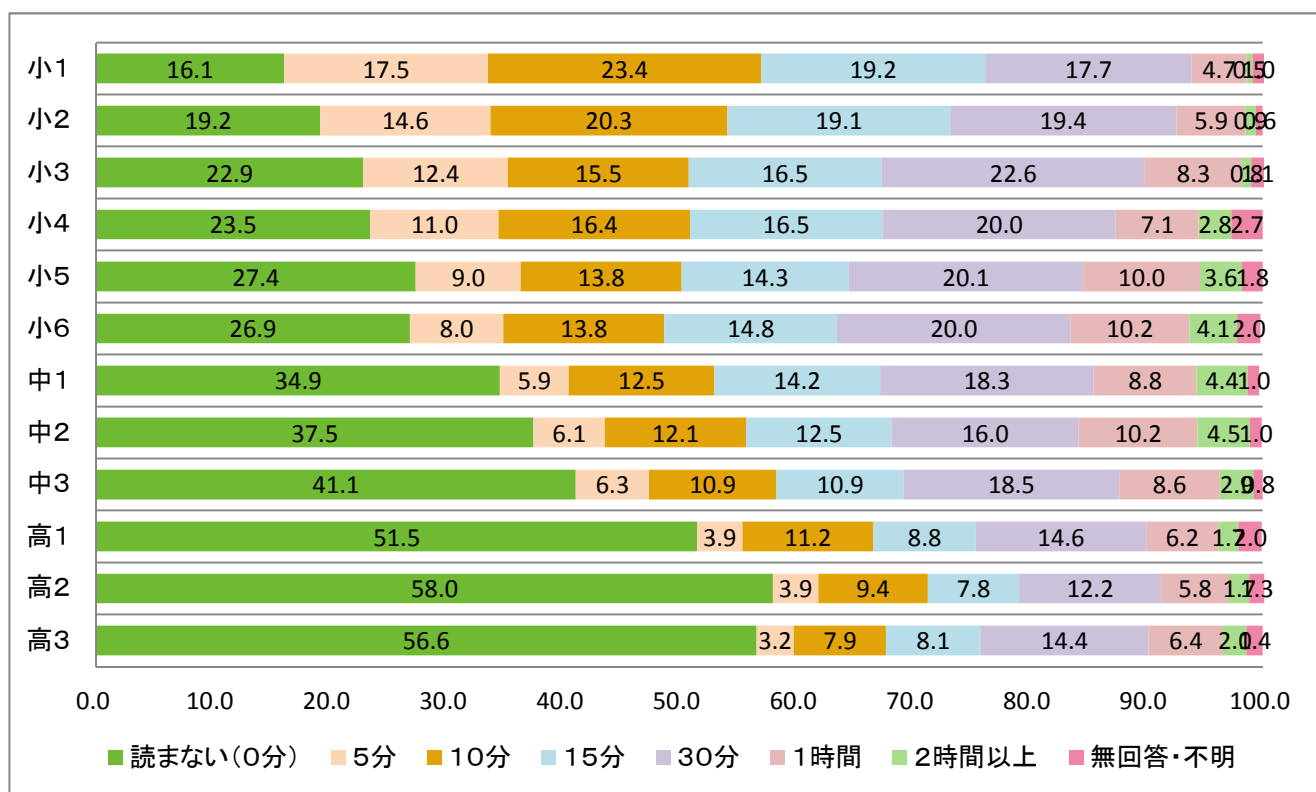
問10 あなたは、学校（大学）以外で、平日（月～金曜日）、1日どれくらいの時間読書をしますか。

※有効回答数 小3：680、小6：725、中3：597、高2：278、大：238



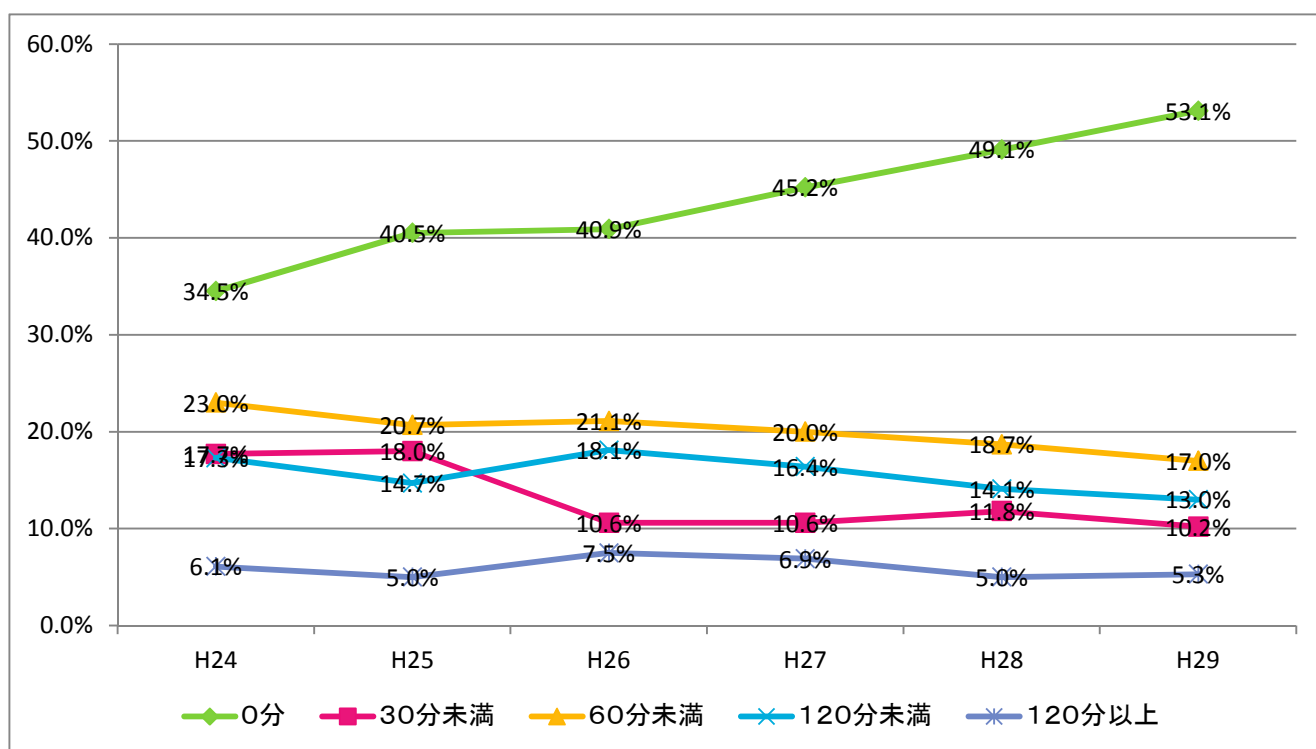
- ・「全く読んでいない」が大学生以外の調査対象で増加している。前回調査から続く傾向。
- ・前回調査同様「全く読んでいない」は大学生を除くと、学年が上がるに従って増加する傾向にある（小3：14.9%、小6：17.8%、中3：32.8%、高2：52.9%）。特に高校生では5割を超え、勉強や部活に時間を割かれていることのほか、年々増加していることから電子メディアの普及が背景にあることも想像できる。

<参考> 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 子どもの生活と学びに関する親子調査
2016年から抜粋 本を読む時間（「あなたはふだん（学校がある日）、次のことをどれくらいの時間やっていますか」という設問に対する回答。）



※調査対象：全国の小学1年生～高校3年生の子どもとその保護者（小1～小3は保護者の回答。小4～高3は子どもの回答）有効回収数16,776（子ども11,982）
※調査期間：2016年7～8月

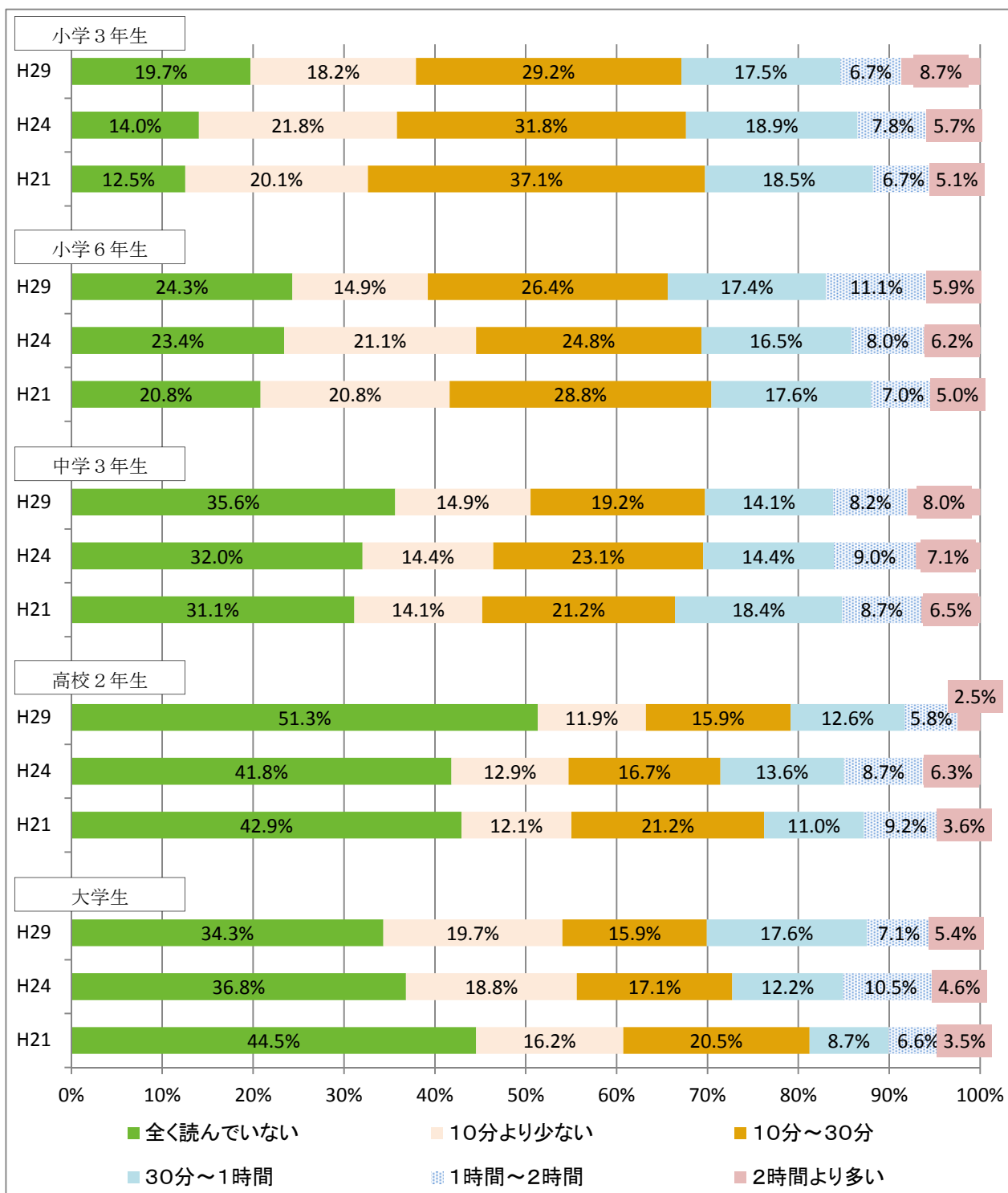
<参考> 全国大学生生活協同組合連合会 第53回学生生活実態調査から抜粋
大学生の一日の読書時間



※調査対象：全国の国公立及び私立大学の学部学生（回収数10,021）
※調査期間：2017年10～11月

問11 あなたは、学校（大学）以外で、休日（土、日、祝日など）に、1日にどれくらいの時間読書を行いますか。

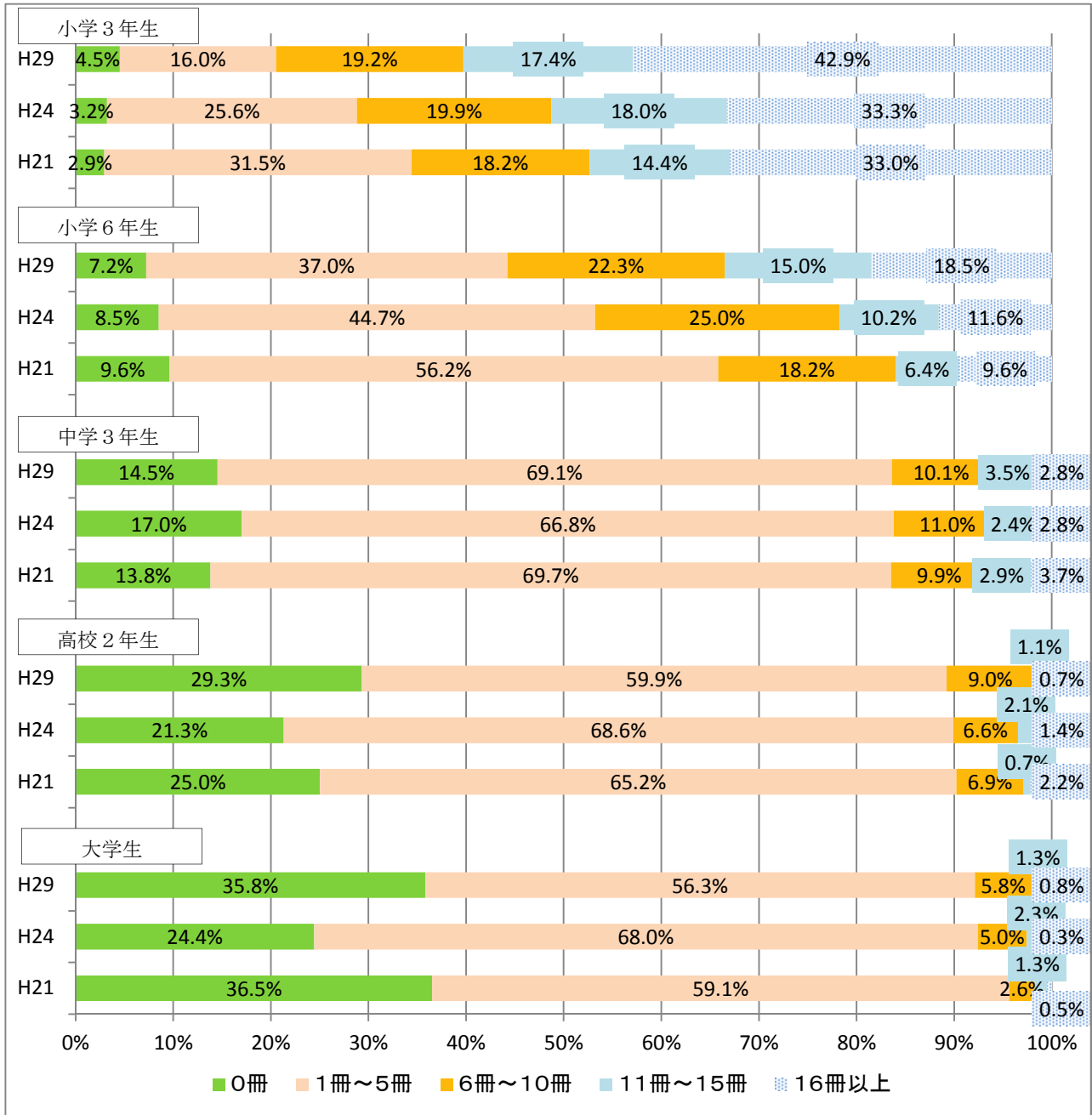
※有効回答数 小3：681、小6：731、中3：598、高2：277、大：239



- ・「全く読んでいない」が大学生以外の調査対象で増加している。前回調査から続く傾向。（平日における読書（問10）と同じ傾向。）
- ・前回調査同様「全く読んでいない」割合は大学生を除くと、学年があがるほど増加する傾向にある（小3：19.7%、小6：24.3%、中3：35.6%、高2：51.3%）。高校生になると5割を超える。（平日における読書（問10）と同じ傾向。）
- ・小学生、中学生では平日よりも休日のほうが読書時間が減る傾向がみられる（問10と比較）。休日は習い事や家族との外出等で読書時間が取れないことが多いと推察する。

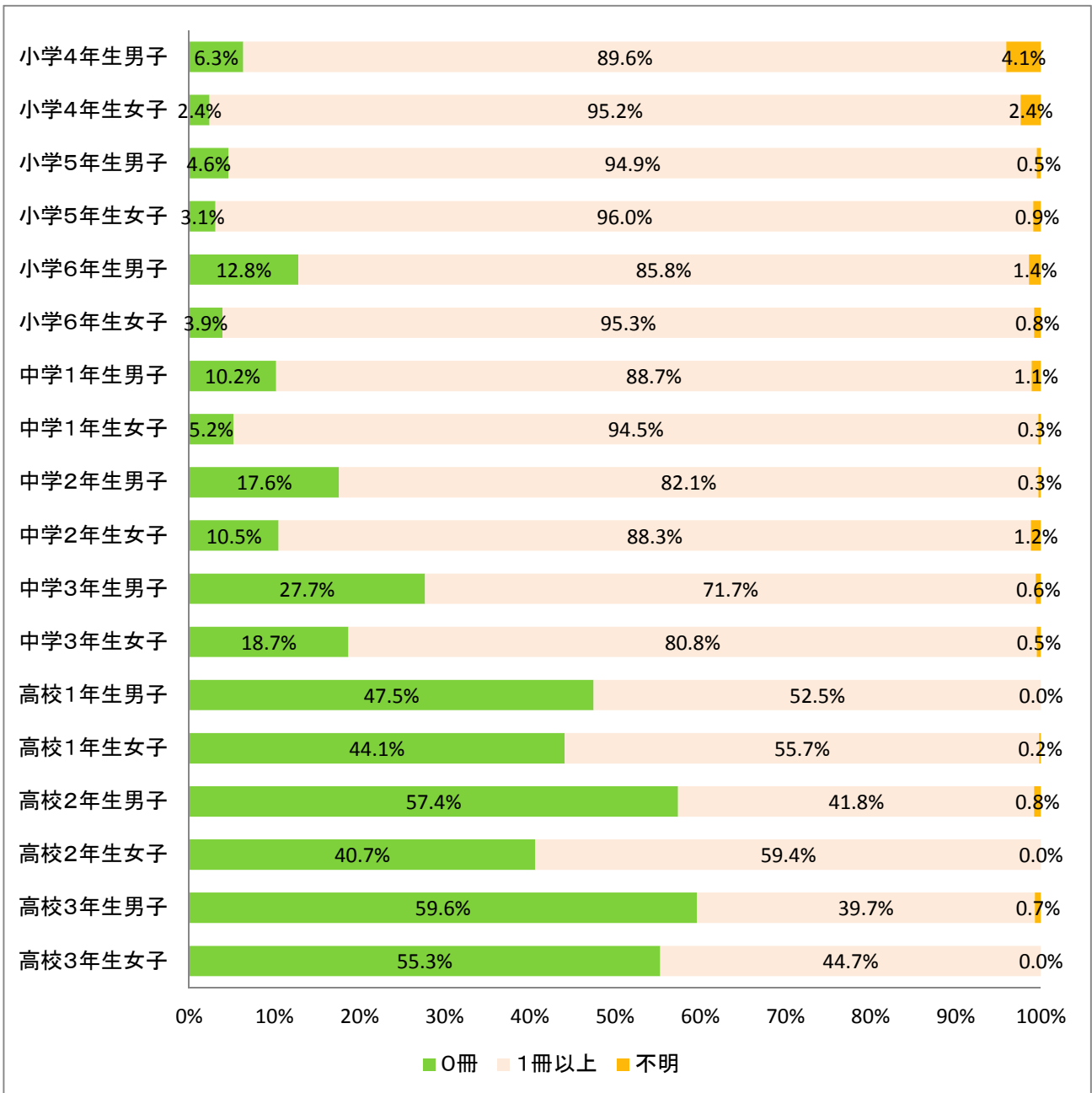
問12 あなたは、この1ヶ月間に何冊本を読みましたか。

※有効回答数 小3：693、小6：735、中3：601、高2：277、大：240



- ・「0冊（一か月に一冊も本を読まない）」の率を前回調査と比較すると、小学生・中学生においては微増減にとどまったものの、高校生は8ポイント、大学生は11.4ポイントと、大きく増加した。
- ・一方で、すべての調査対象で、「6冊以上」が前回調査より増加している（小3：+8.3ポイント、小6：+9.0ポイント、中3：+0.2ポイント、高：+0.7ポイント、大：0.3ポイント）。本を「読む」子どもと「読まない」子どもの差が広がっている。

<参考>全国学校図書館協議会・毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
5月一ヶ月に読んだ本の冊数

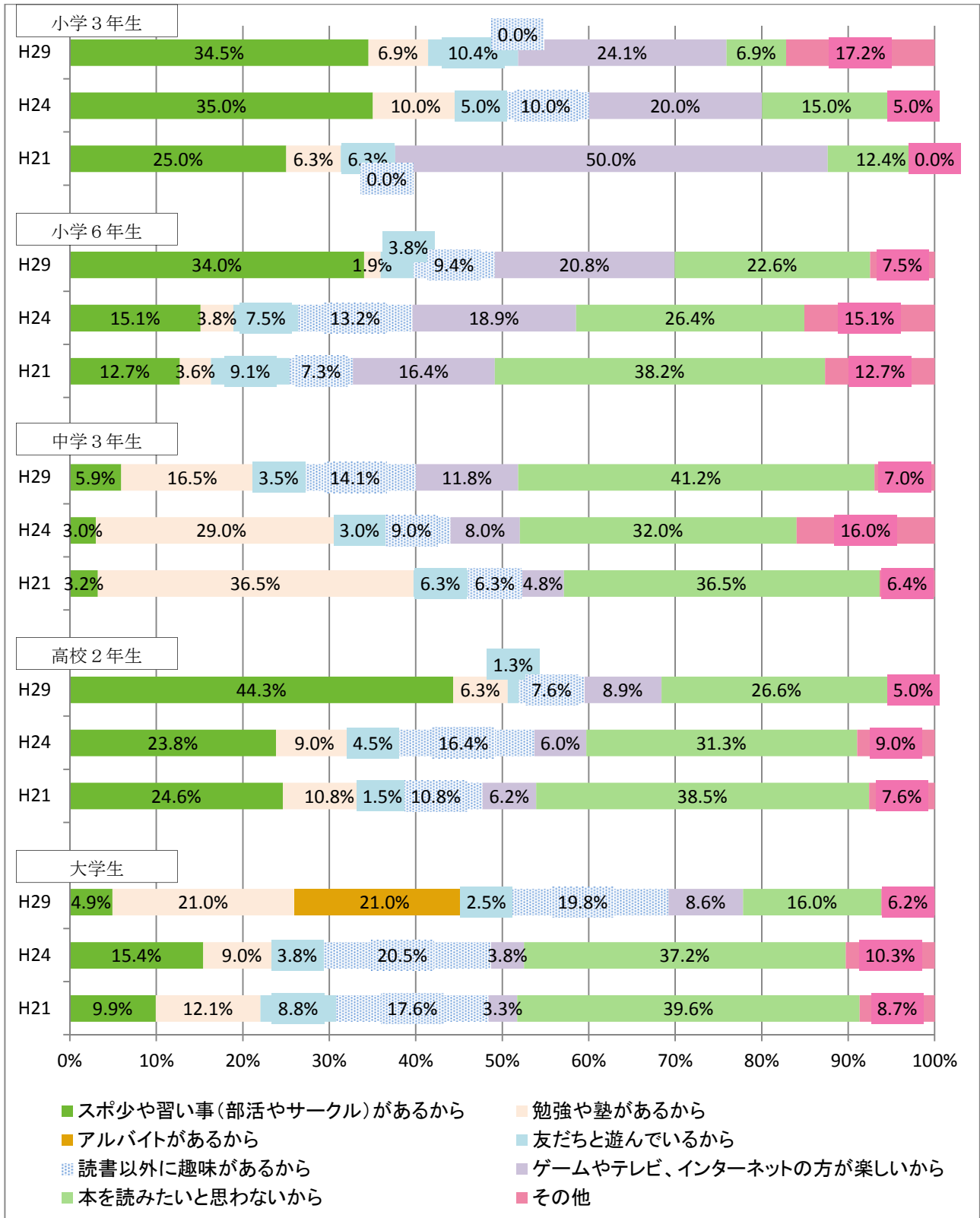


※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽出（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）
調査期間：2017年6月1・2週

問13 問12で「0冊」と答えた方にお聞きします。本を読まなかったのはなぜですか。

※有効回答数 小3：29、小6：53、中3：85、高2：79、大：81

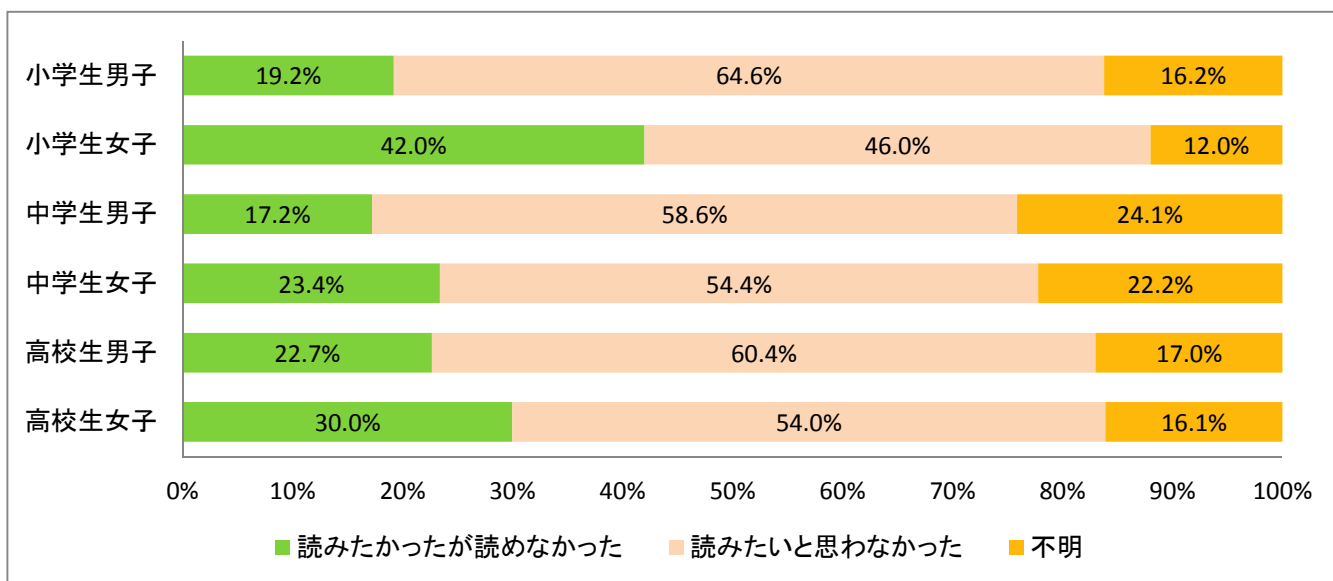
(小3については標本数が50未満のため参考値として示す。また、分析対象から除く。)



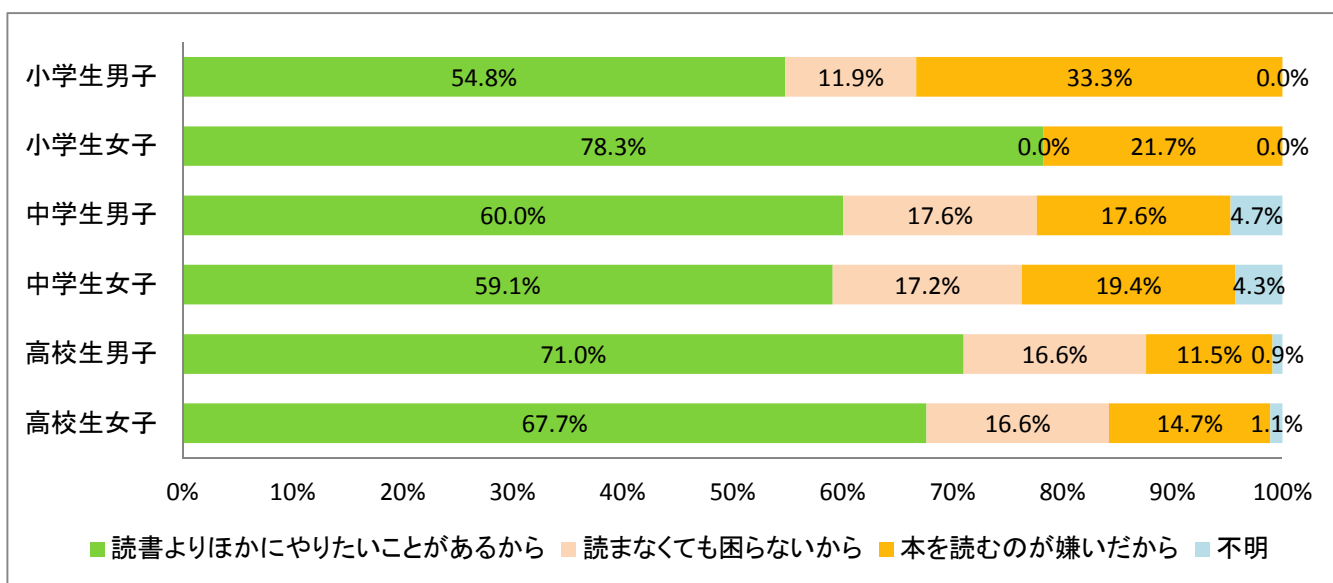
- ・小学生、高校生では「スポーツ少年団や習い事があるから」が最も高い（小3：34.5%、小6：34.0%、高44.3%）。
- ・大学生では「勉強があるから」「アルバイトがあるから」が最も高い（どちらも21.0%）。
- ・中学生は「本を読みたいと思わない」が最も多いが（41.2%）、小学6年生、高校生においても2割を超えており、まずは本を手にするきっかけが必要だと思われる。

<参考>全国学校図書館協議会・毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋

5月一か月の間に読んだ本の冊数が0冊の子どもの本を読まなかった理由



5月一か月の間に読んだ本の冊数が0冊の子どもが本を読みたいと思わなかった理由

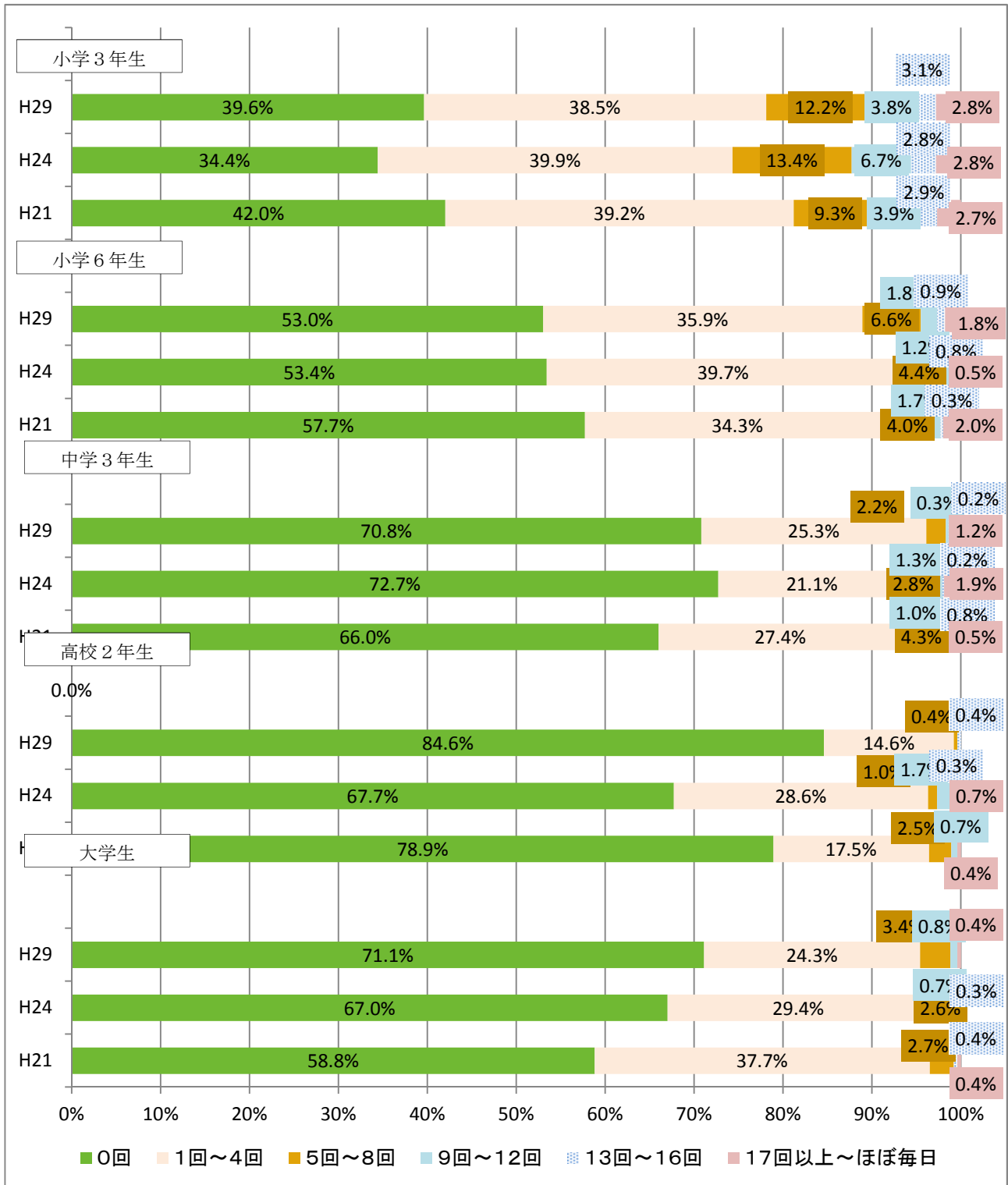


※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

調査期間：2017年6月1・2週

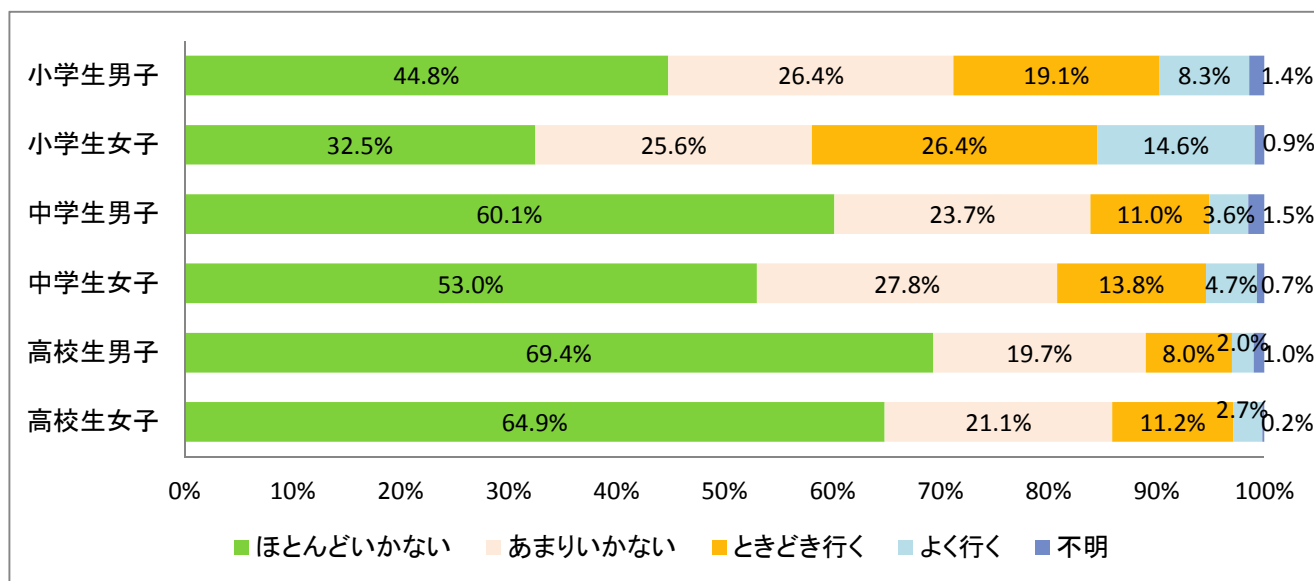
問14 あなたは1ヶ月にどれくらい公立図書館（移動図書館車を含む）に行きますか。

※有効回答数 小3：679、小6：727、中3：586、高2：273、大：235



・前回調査同様「0回」が、どの調査対象でも最も高く、大学生を除き、学年があがるほどその割合が大きくなっている（小3：39.6%、小6：53%、中3：70.8%、高2：84.6%、大71.1%）。

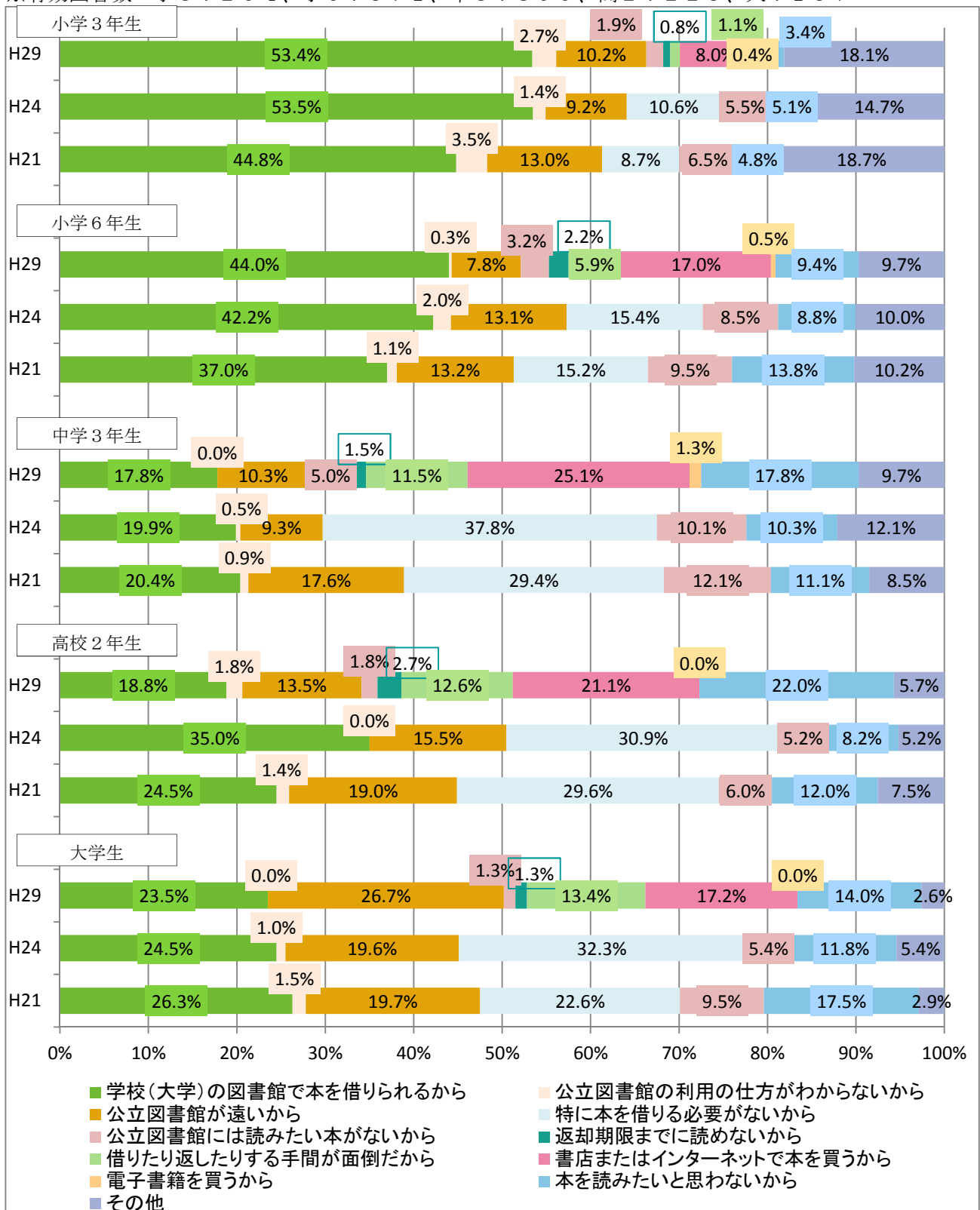
<参考>全国学校図書館協議会・毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
本を読むために公共図書館をどのくらい利用するか



※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）
調査期間：2017年6月1・2週

問15 問14で「0回」と答えた方にお聞きします。公立図書館（移動図書館車を含む）へ行かないのはなぜですか。

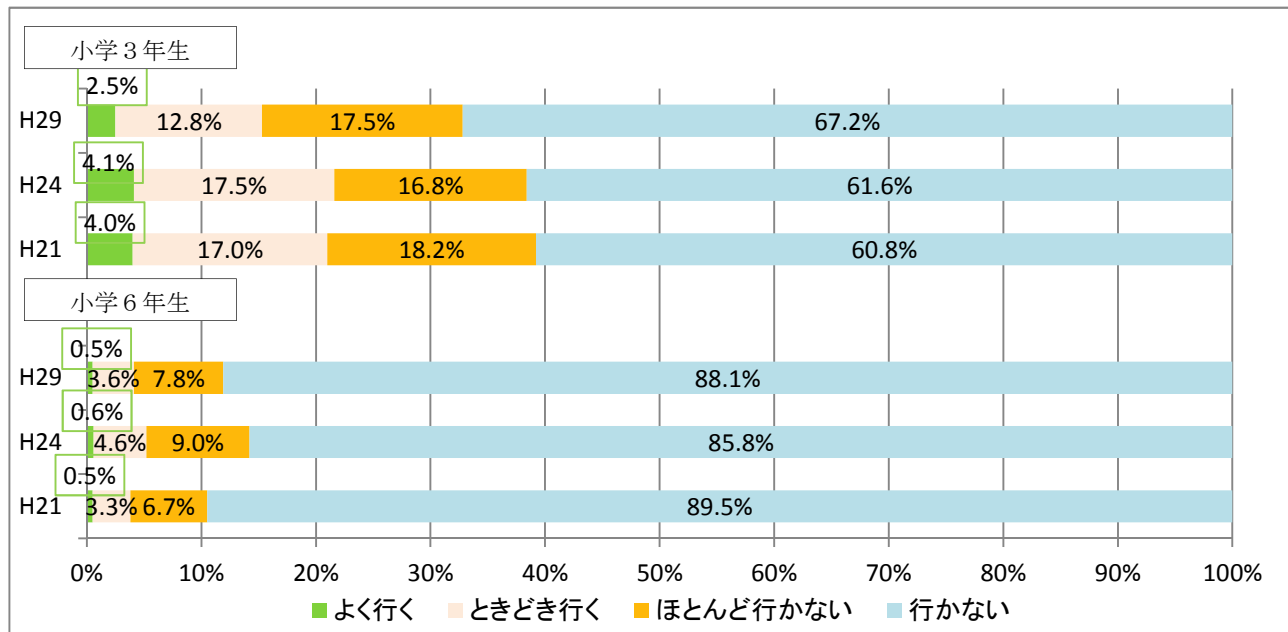
※有効回答数 小3：264、小6：371、中3：399、高2：223、大：157



- 小学生は「学校(大学)の図書館で本を借りられるから」が最も多く(小3：53.4%。小6：44.0%)、前回調査と同じ傾向。子どもだけの行動範囲に限られるため、より身近な場所で本を手にする傾向があると思われる。
- 中学生では「書店またはインターネットで本を買うから」が最も多くなる(中25.1%)。高校生でも21.1%であり、行動範囲が広がることやスマートフォンを所持し始めることが理由として考えられる。
- 高校生では「本を読みたいと思わないから」が最も多い(22%)。中学生以上でも「本を読みたいと思わない」が比較的多く見られる(中：17.8%。大：14%)。まずは本を手にするきっかけを作ることが必要だと思われる。

問16 (小学生のみの設問) あなたは、公立図書館で行われる「おはなし会」に行くことがありますか。

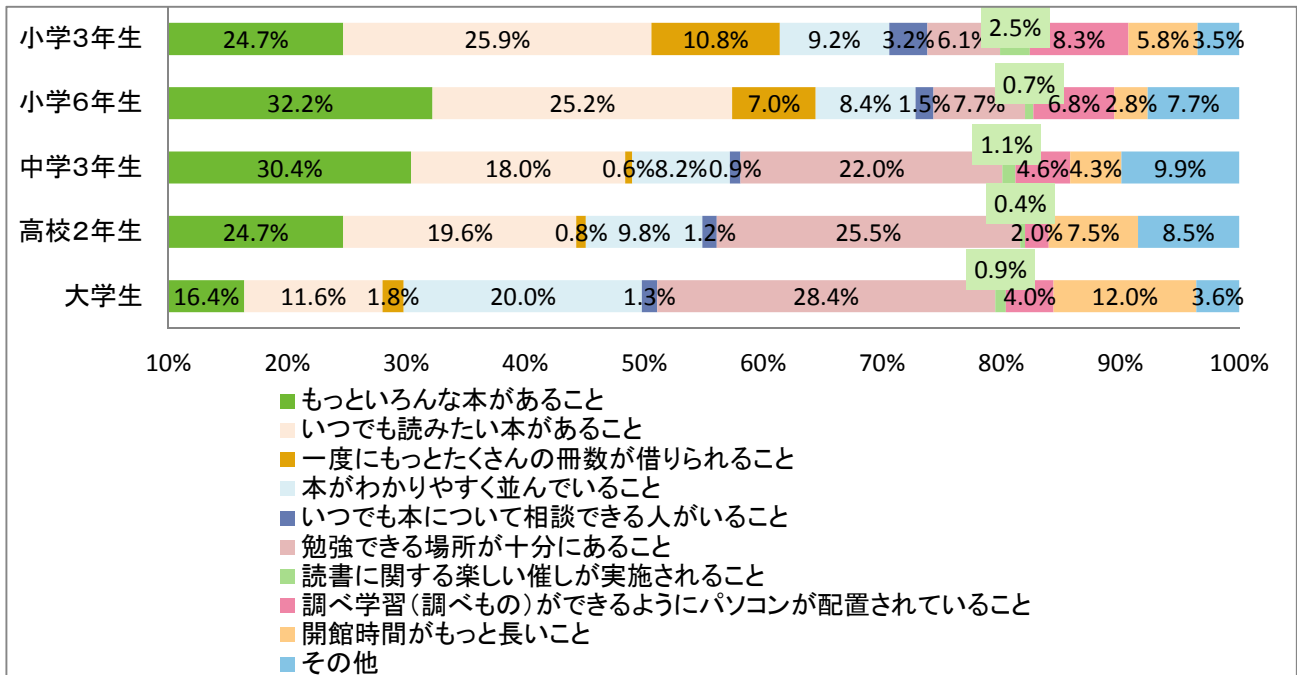
※有効回答数 小3：650、小6：689



・前回調査同様、どちらの調査対象でも「行かない」が最も多い(小3：67.2%、小6：88.1%)。

問17 あなたが、公立図書館に一番望むことは何ですか。

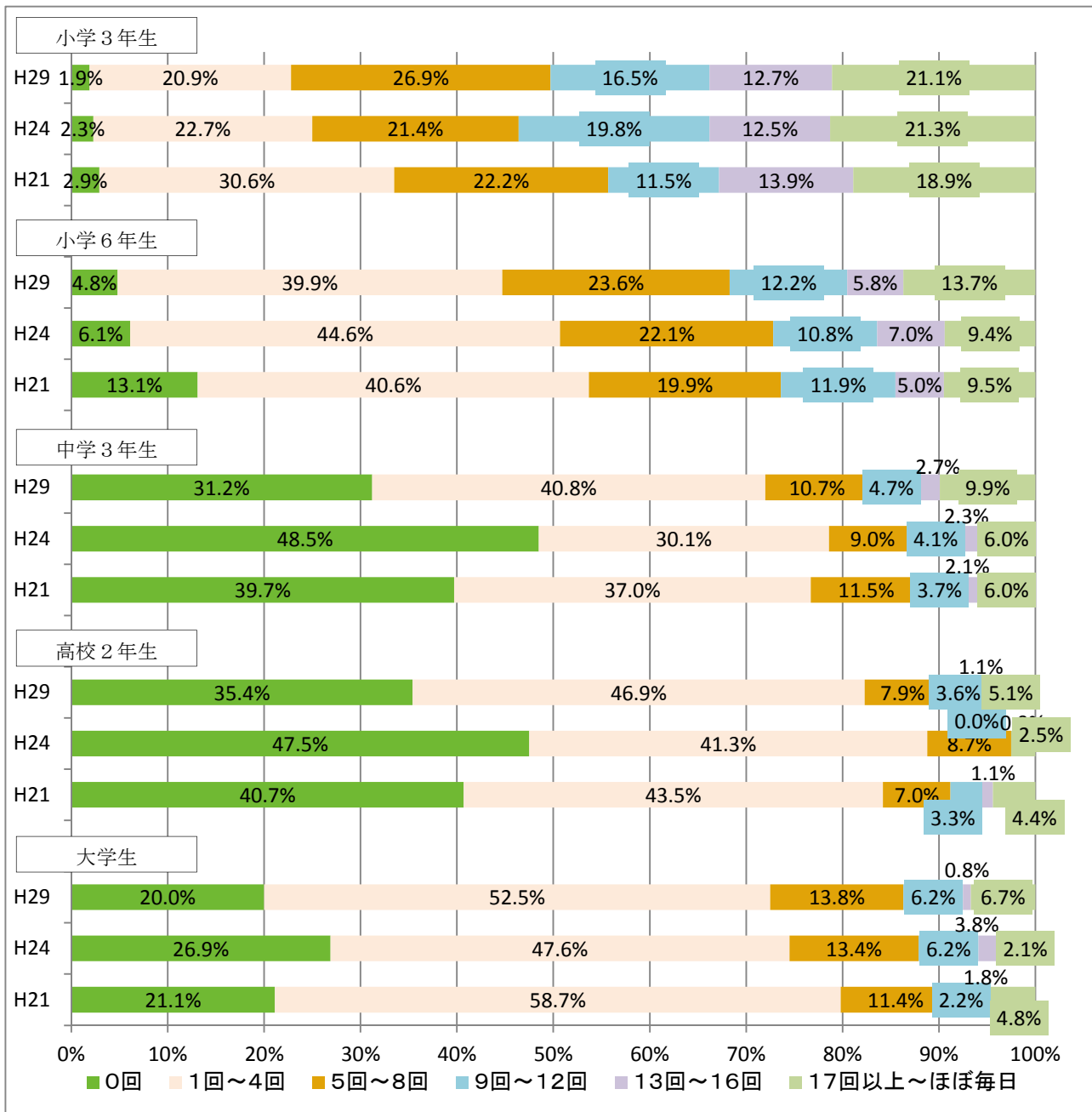
※有効回答数 小3：688、小6：718、中3：540、高2：255、大：225



- ・小学生では「もっといろんな本があること」(小3：24.7%、小6：32.2%)「いつでも読みたい本があること」(小3：25.9%、小6：25.2%)、中学生、高校生では「もっといろんな本があること」(中：30.4%、高：24.7%)が上位を占める。図書館にある本と子どもたちの読みたい本が一致していないことや、読みたい本がいつも貸し出し中で借りられなかったりする状況があると考えられる。
- ・中学生以上になると「勉強できる場所が十分にあること」が増える(中：22%、高：25.5%、大：28.4%)。図書館に学習場所としての役割を期待していることが読み取れる。
- ・大学生になると「本がわかりやすく並んでいること」が2番目に多くなり(20%)、専門書等をすぐに見つけることを期待しているものと思われる。
- ・中学生以上では、学年が上がるほど「開館時間をもっと長いこと」を望む傾向があり(中：4.3%、高：7.5%、大：12.0%)、個人で行動する時間帯が増えていく年代でもあることから、自分の都合のよい時間に図書館を利用したい思いが読み取れる。
- ・「調べ学習ができるようにパソコンが配置されていること」は大学生を除いて学年が上がるほど減少の傾向がある。(小3：8.3%、小6：6.8%、中：4.6%、高2.0%)。学年が上がるほど個人でスマートフォン等を所持する割合が増加するため、調べ学習に図書館のパソコンを必要としないことが考えられる。

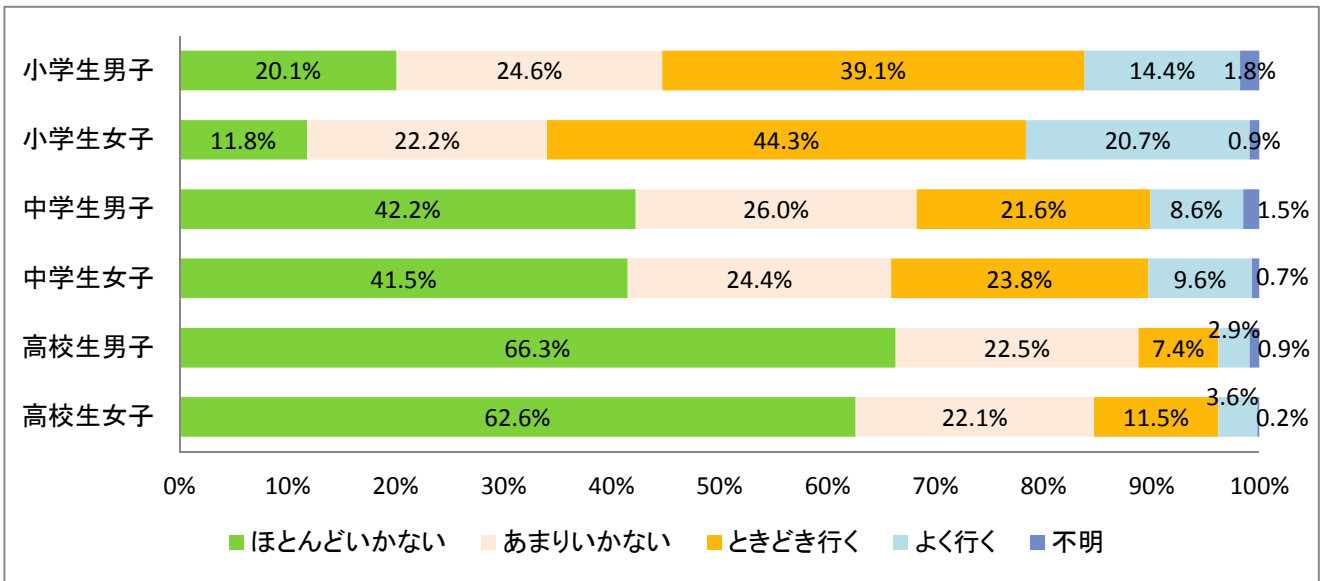
問18 あなたは、1ヶ月にどれくらい学校（大学）の図書館に行きますか。

※有効回答数 小3：695、小6：737、中3：600、高2：277、大：240



- ・どの調査対象でも「公立図書館」よりは「学校（大学）図書館」に行く割合が高い。（問14との比較）。特に小学生では95%以上の子どもたちが学校図書館を利用している。
- ・どの調査対象でも、前回調査時から比較し、「0回」の割合が減っている。学校（大学）図書館の活用が進んでいることがうかがえる。

<参考> 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋
 本を読むために学校図書館をどのくらい利用するか

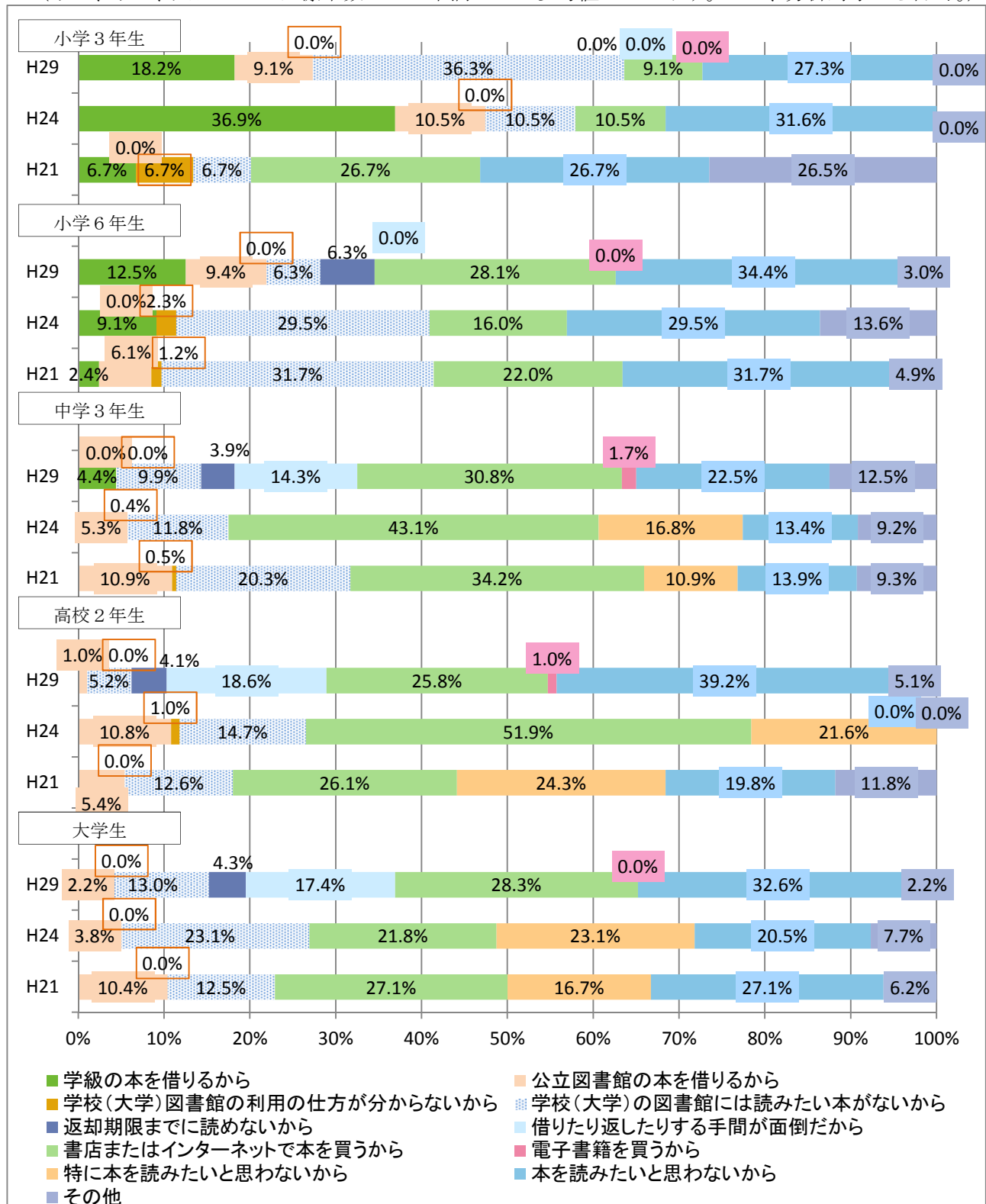


※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）
 調査期間：2017年6月1・2週

問19 問18で「0回」と答えた方にお聞きします。学校(大学)の図書館に行かないのはなぜですか。

※有効回答数 小3：11、小6：32、中3：182、高2：97、大：46

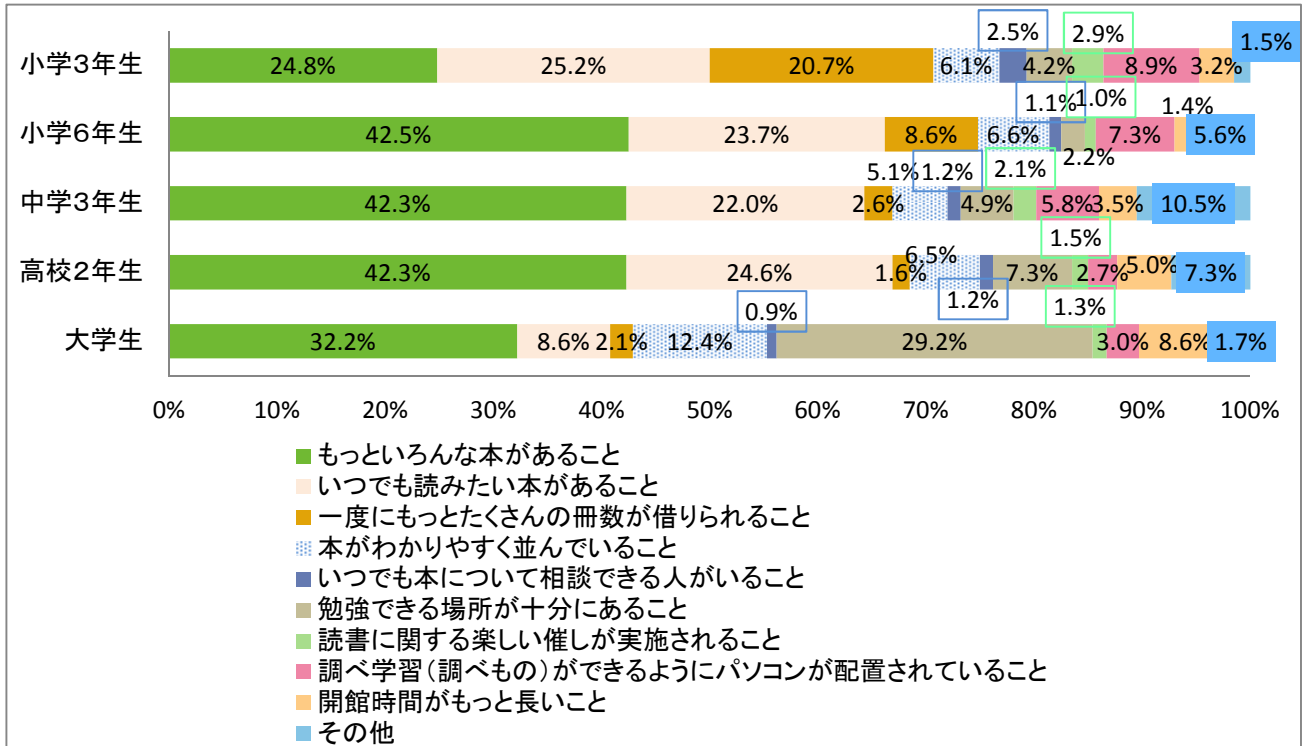
(小3、小6、大については標本数が50未満のため参考値として示す。また、分析対象から除く。)



- どの調査対象でも「本を読みたいと思わない」が約3割を占めている。
- 中学3年生以上では「書店またはインターネットで本を買うから」についても3割程度ある。書店等で読みたい本を購入する、気に入った本は手元に置いておきたい等の理由が考えられる。

問20 あなたが、学校（大学）の図書館に一番望むことは何ですか。

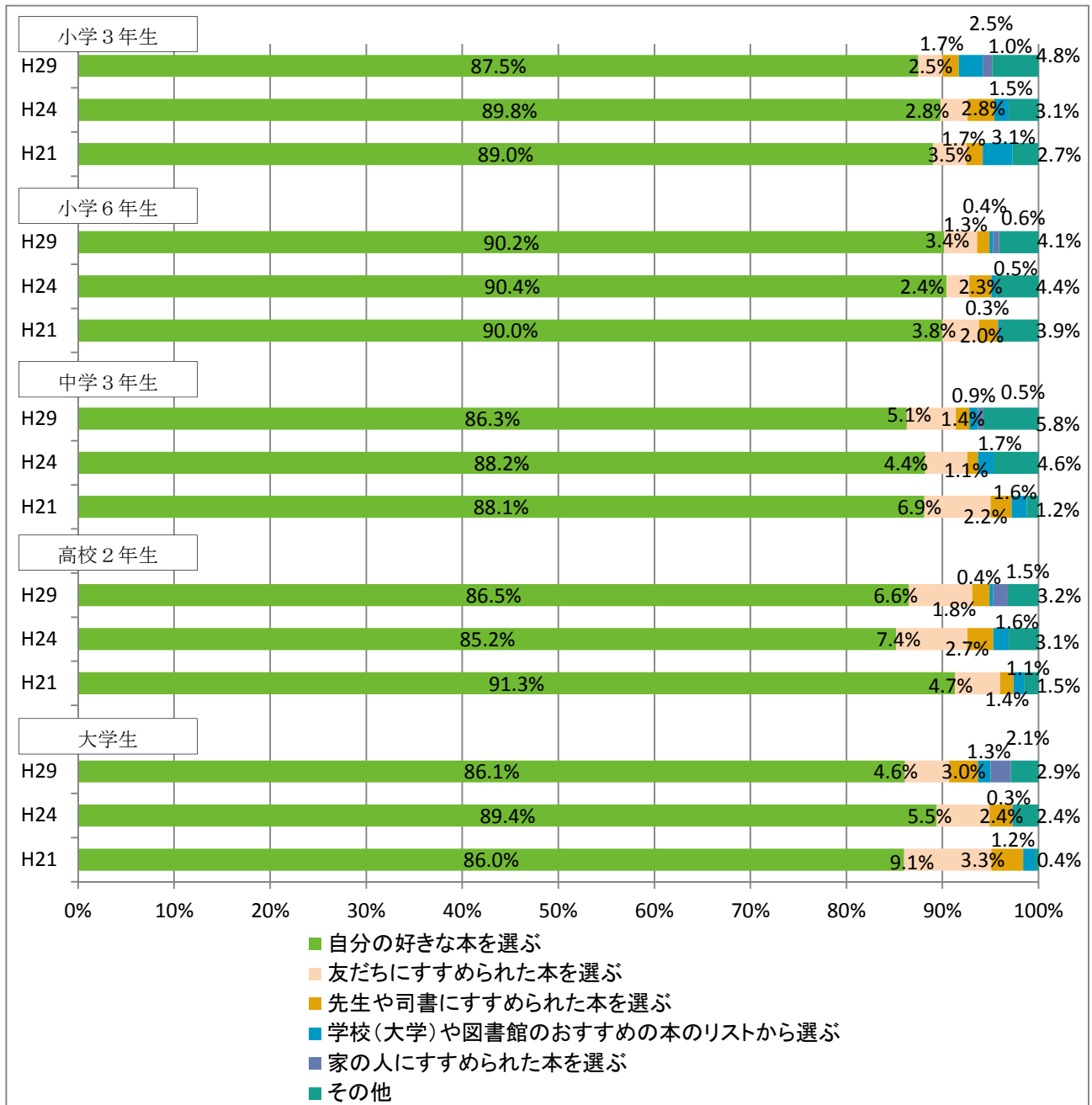
※有効回答数 小3：686、小6：723、中3：572、高2：260、大：233



- ・大学生以外のすべての調査対象で「もっといろんな本があること」（小3：24.8%、小6：42.5%、中3：42.3%、高2：42.3%）「いつでも読みたい本があること」（小3：25.2%、小6：23.7%、中3：22.0%、高2：24.6%）、大学生では「もっといろんな本があること」（32.2%）の割合が大きく、「公立図書館に望むこと」（問17）とその傾向は同様。学校図書館にある本と、子どもたちが読みたい本が一致していないことや、読みたい本はいつも貸し出し中で借りられない等の状況があるものと考えられる。
- ・大学生は「勉強ができる場所が十分にあること」が2番目に高い（29.2%）。大学図書館に学習場所としての機能を求めていることがうかがえる。
- ・「公立図書館に望むこと」（問17）と同様に、大学生になると「本がわかりやすく並んでいること」が3番目に多くなり（12.4%）、専門書等をすぐに見つけること等を期待しているものと思われる。
- ・「公立図書館に望むこと」（問17）と同様に、中学生以上について、学年が上がるほど「開館時間がもっと長いこと」が増える（中3：3.5%、高2：5.0%、大：8.6%）。個人で行動する時間が増えていく年代でもあることから、自分の都合のよい時間に図書館を利用したい思いが読み取れる。
- ・「公立図書館に望むこと」（問17）と同様に、「調べ学習ができるようにパソコンが配置されていること」は大学生を除いて学年が上がるほど減少の傾向がある（小3：8.9%、小6：7.3%、中3：5.8%、高2：2.7%）。学年が下がるほど、個人でスマートフォン等を所持していないことが背景にあると考えられる。

問21 あなたは、本をどのように選んでいますか。

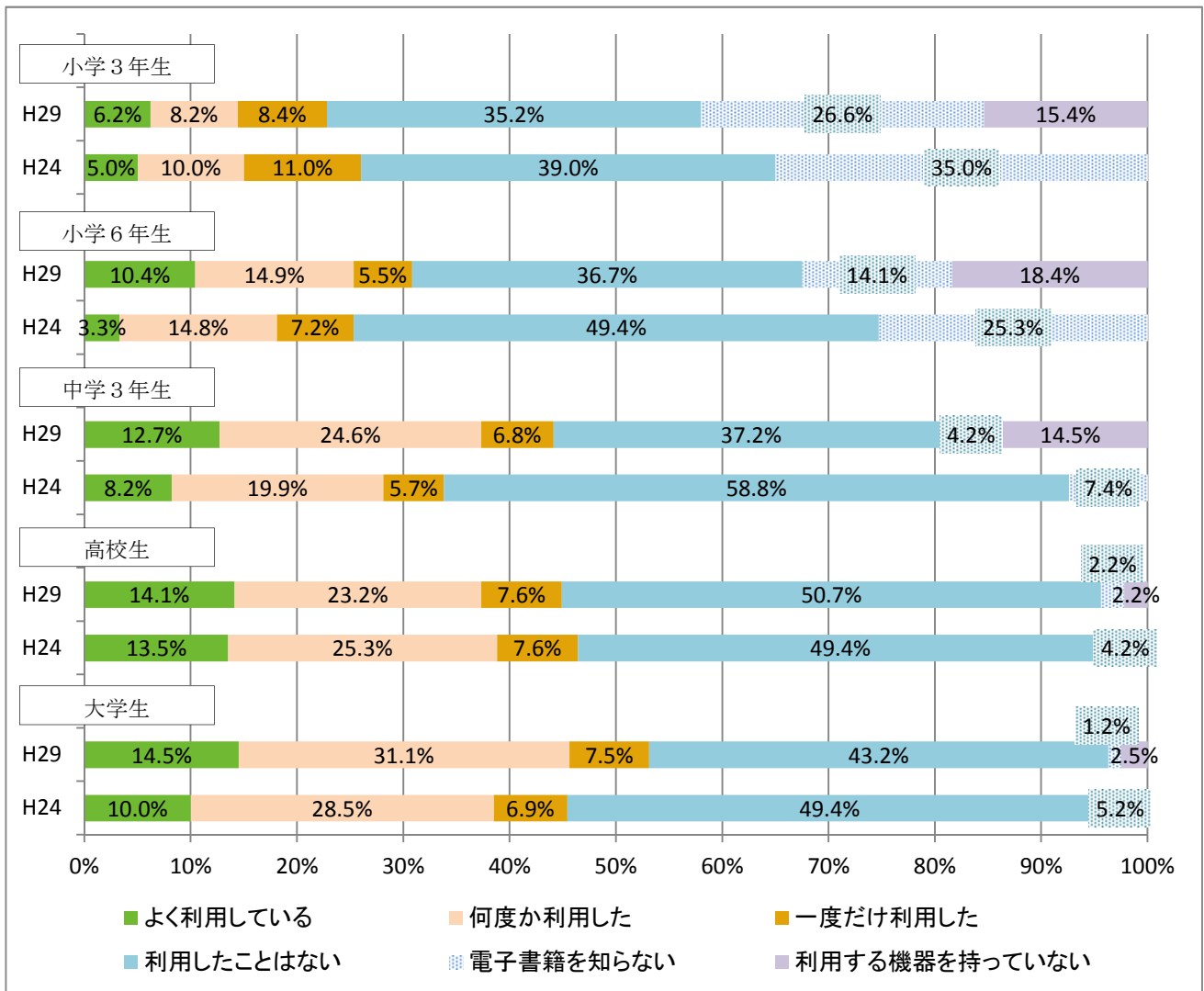
※有効回答数 小3：693、小6：726、中3：591、高2：274、大：238



- ・前回調査同様、どの調査対象でも、「自分の好きな本を選ぶ」傾向が強い。
- ・どの調査対象でも「友だちにすすめられた本を選ぶ」「先生や司書にすすめられた本を選ぶ」「家の人にすすめられた本を選ぶ」が一定程度存在する。(小3：5.2%、小6：5.3%、中：7.0%、高：9.9%、大：9.7%)

問2 2 あなたは、電子端末（タブレットや携帯電話やスマートフォンなど）を使った電子書籍を利用したことがありますか。

※有効回答数 小3：680、小6：732、中3：599、高2：276、大：241

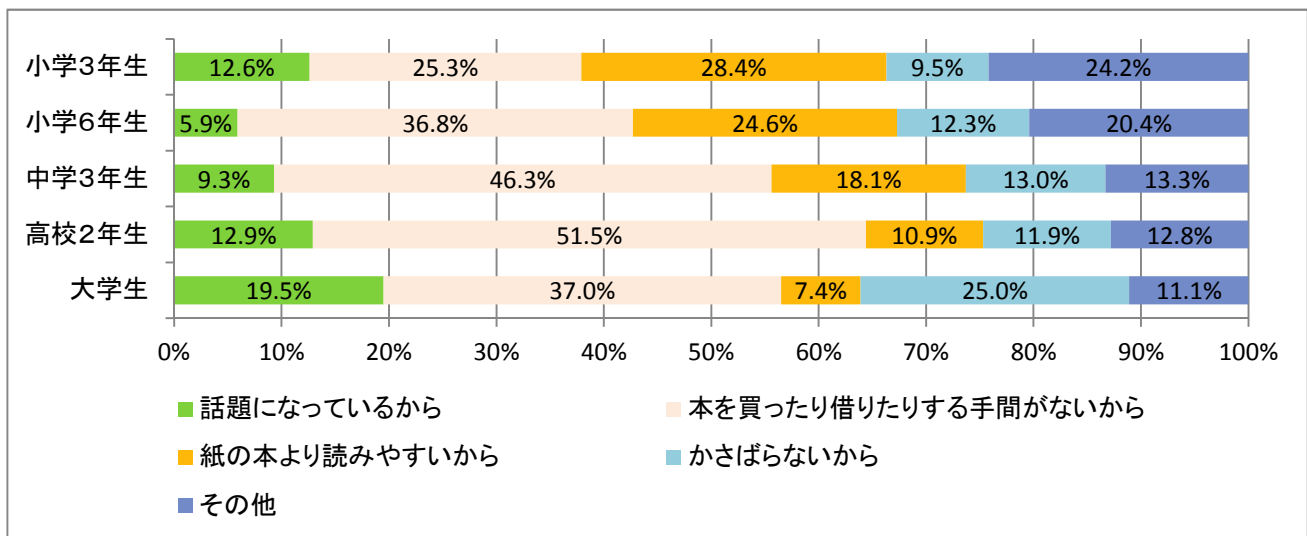


・利用したことがある割合は学年が上がるほど増加（小3：22.8%、小6：30.8%、中3：44.1%、高：44.9%、大：53.1%）しているが、大学生で約半数を超えるほかは、電子書籍をもっていない者や利用機器を持っていない者も含め、利用したことのない者が多数を占めている。

一方、前回調査と比較して、すべての調査対象で「よく利用している」が増加（小3：+1.2ポイント、小6：+7.1ポイント、中3：+4.5ポイント、高2：+0.6ポイント、大：+4.5ポイント）しており、中でも小学6年生は+7.1ポイントと大きく増加しており、電子メディア機器利用の低年齢化も影響している可能性がある。

問23 問22で「よく利用している」「何度か利用した」と答えた方にお聞きします。電子書籍を読む理由は何ですか。

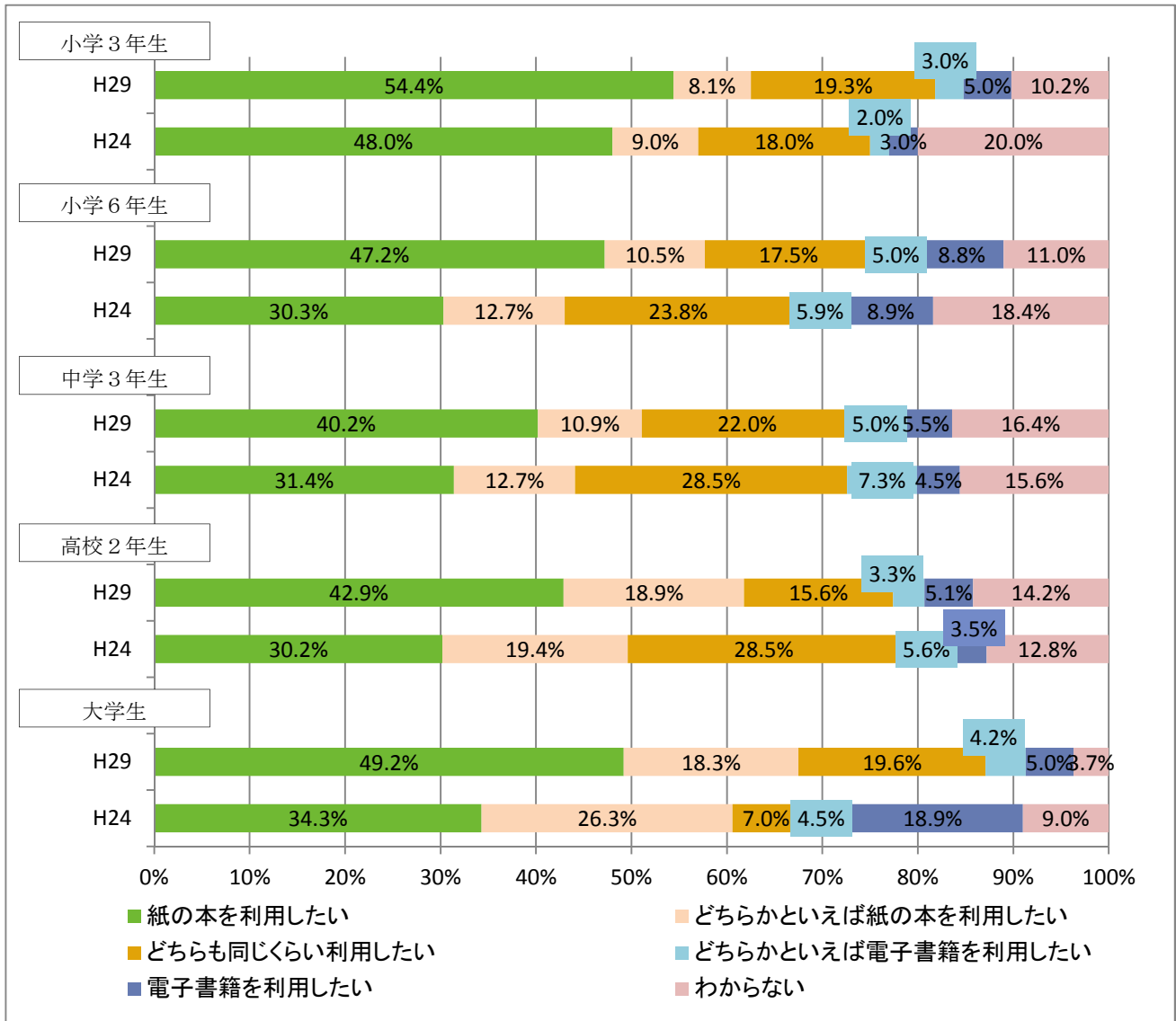
※有効回答数 小3：95、小6：171、中3：216、高2：101、大：108



- ・小学3年生以上のすべての調査対象で「本を買ったり借りたりする手間がないから」が最も多い（小6：36.8%、中：46.3%、高：51.5%、大37.0%）。（小学3年生でも2番目に多く25.3%。）
- ・小学3年生では「紙の本より読みやすいから」が最も多く（28.4%）、小学6年生、中学生でも2番目に多い（小6：24.6%、中：18.1%）。幼い頃からすでに電子メディア機器が普及しており、電子書籍が身近な存在になっていることがうかがえる。
- ・大学生になると「かさばらないから」と回答した率も25%と高くなっている。自宅での書籍の整理が必要なくなるほか、外出先での移動中や待ち時間などでの読書として電子書籍を利用する機会があるのではないかと推測できる。

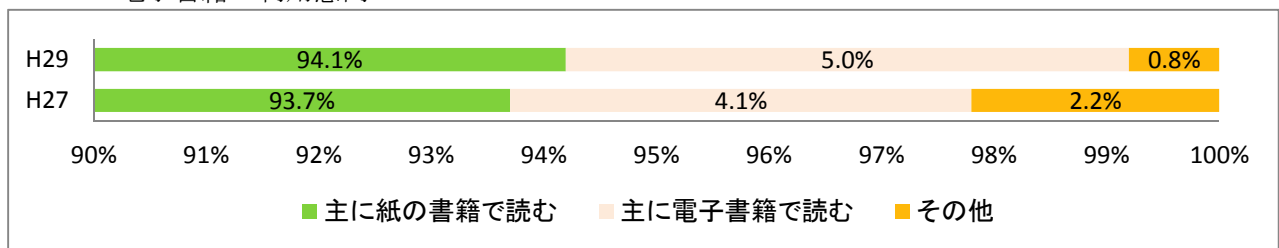
問24 あなたは、これから紙の本と電子書籍のどちらを利用したいと思いますか。

※有効回答数 小3：678、小6：702、中3：599、高2：275、大：240



・前回調査同様、「紙の本を利用したい」が最も高く（小3：54.4%、小6：47.2%、中：40.2%、高：42.9%、大：49.2%）、また、前回調査時よりその割合は増えている。「どちらかといえば紙の本を利用したい」とあわせると、どの調査対象でも5割を超える（小3：62.5%、小6：57.7%、中：51.1%、高：61.8%、大：67.5%）。

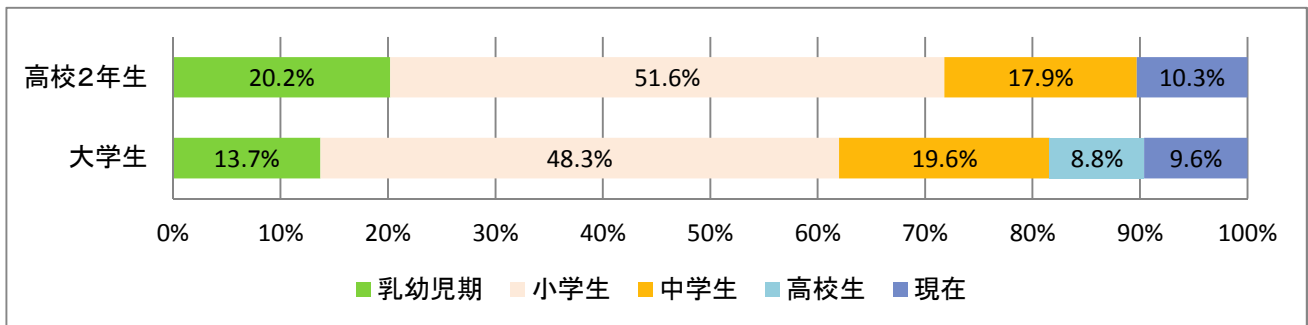
<参考>株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017年版）から抜粋
電子書籍の利用意向



※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効サンプル1,200）
調査期間：平成29年10月18日～10月19日

問25 (高校生以上のみの設問) これまでを振り返って、今の読書習慣はいつの時期から始まっていますか。

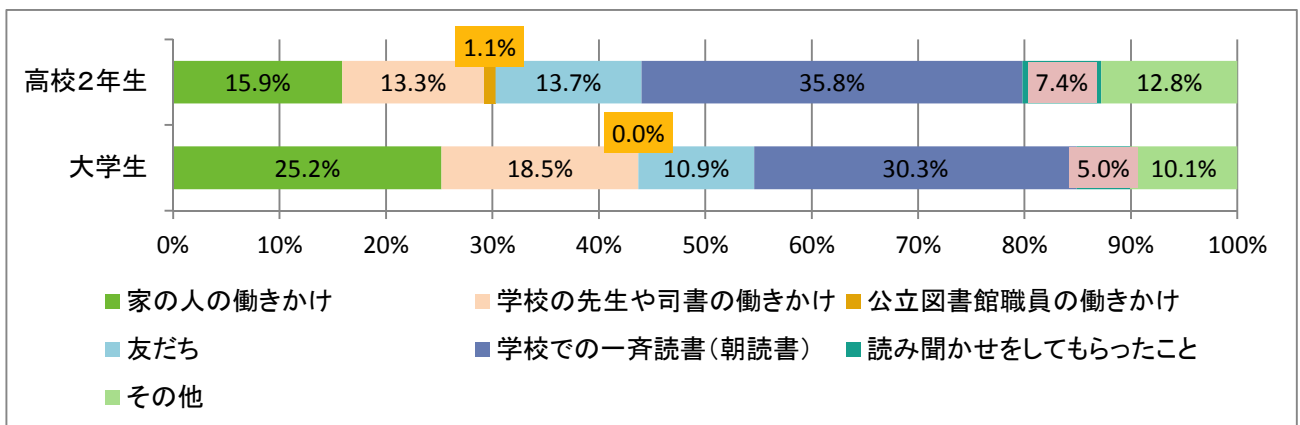
※有効回答数 高2：273、大：240



- どちらの調査対象でも「小学生」が最も高く、5割程度を占める（高：51.6%、大：48.3%）。「乳幼児期」を含めると6割を超える（高：71.8%、大：62%）。幼い頃からの習慣化が重要だと考えられる。

問26 (高校生以上のみの設問) 現在の読書習慣に影響を与えたのは何ですか。

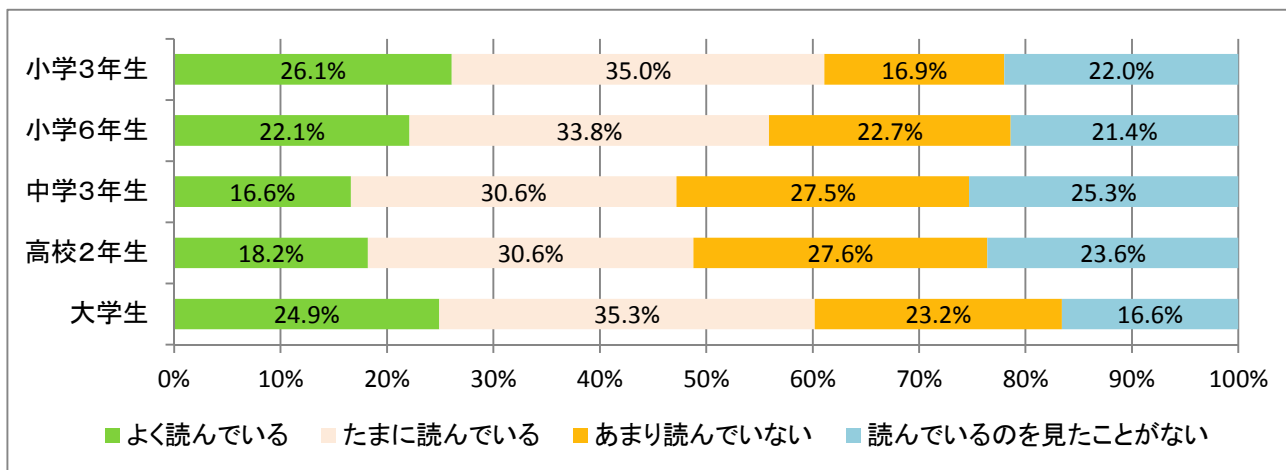
※有効回答数 高2：271、大：238



- どちらの調査対象でも「学校での一斉読書（朝読書）」の割合が最も高く、3割を超える（高：35.8%、大：30.3%）。
- また、「家の人の働きかけ」が2番目に多く（高：15.9%、大：25.2%）、「学校の先生や司書の働きかけ」（高：13.3%、大：18.5%）「友だち」（高：13.7%、大：10.9%）との回答も一定割合存在する。身近な存在が読書習慣の定着に重要な役割を果たすものと考えられる。

問27 あなたの家の人(大人)は読書をしていますか。

※有効回答数 小3：692、小6：723、中3：597、高2：275、大：241



- ・どの調査対象でも「たまに読んでいる」が最も高く、「よく読んでいる」とあわせると概ね5割程度以上の保護者が家庭で読書をしている。
- ・一方で「読んでいるのを見たことがない」が、どの調査対象でも2割程度存在している。